

平成29年度
事業報告

社会福祉法人 品川総合福祉センター

目 次

法人事業報告	1
法人研修事業報告	7
安全衛生委員会事業報告	9
地域福祉課事業報告	11

障害者群

1. 障害者支援施設 かもめ園（知的障害部門）事業報告	15
2. 障害者支援施設 かもめ園（身体障害部門）事業報告	19
3. 障害福祉サービス事業 サンかもめ事業報告	23
4. 障害福祉サービス事業 鮫洲なぎさの家事業報告	25
5. 障害福祉サービス事業 さつき事業報告	27
6. 障害福祉サービス事業 福祉工場しながわ事業報告	31
7. 品川区立心身障害者福祉会館事業報告	35
8. 保育所 八潮中央保育園事業報告	49

高齢者群

1. 特別養護老人ホーム かえで荘事業報告	51
2. 特別養護老人ホーム 品川区立中延特別養護老人ホーム事業報告	55
3. 特別養護老人ホーム 品川区立八潮南特別養護老人ホーム事業報告	59
4. グループホーム八潮南事業報告	63
5. 品川区立中延在宅サービスセンター事業報告	67
6. 品川区立八潮在宅サービスセンター事業報告	69
7. 品川区立大井在宅サービスセンター事業報告	71
8. 在宅介護支援センター事業報告	73
9. 品川区立高齢者住宅 八潮わかくさ荘事業報告	75
10. 品川区立高齢者住宅 大井倉田わかくさ荘事業報告	77
11. 品川区立大井三丁目高齢者憩いの場事業報告	79

平成29年度 法人事業報告

1. 総括

社会福祉法人制度改革において経営組織のガバナンスの強化が盛り込まれ、内部管理を強化するため理事会や評議員会、役員等の役割や権限、責任の範囲等が明確化された。さらに、財務規律の確立に向け、当法人は会計監査人が設置義務となり、当年度より計算書類に対する会計監査人による監査体制、経営組織を整備した。

また各事業とも利用者ニーズに応えるべくサービスの質を高め、利用率の向上を進めてきた。

品川区からの新規受託事業として大井三丁目高齢者憩いの場（大井三丁目ゆうゆうプラザ）を4月27日に開所、高齢者を中心に多世代交流を進める地域の福祉拠点として事業展開を進めた。

福祉工場しながわパン工房プチレーブは二葉町へ移転後2年目を迎え、さらなる販売促進、収益の拡大に向け創意工夫を重ね、品川区立中小企業センター1階ロビーにカフェを開店させた。

施設整備においては、障害者施設の防犯対策強化を東京都及び品川区の補助事業を活用して実施、防犯カメラ、非常通報装置等の設置を進めた。

一方、近年の介護人材の採用が困難な状況は年を追うごとに厳しさを増し、採用試験は年間を通じ実施してきた。優秀な人材確保が法人の継続性にとり不可欠であり、人材の採用、育成、定着に向け採用活動、人材育成、働きやすい職場作りに力を尽くしてきた。

また、法人の職員給与、人事課題の解決に向けて人事給与制度検討委員会を運営、積極的に職員に説明や意向確認の機会を設け、理解、協力を得つつ丁寧に見直しを進めてきた。

年度末、品川総合福祉センター未来創造図（中長期基本方針・計画）5年目の中間検証を行い、中期経営計画の策定方針、3重点課題を抽出（人権尊重、人材育成、収支改善）、法人内各事業所の計画立案との連動を図った。

2. 諸課題解決に向けて

（1）事業管理

- ①大井三丁目高齢者憩いの場（大井三丁目ゆうゆうプラザ）は5月に開所、事業は小規模な拠点を最大限活用し、地域密着型の地域ミニデイ（10月から開始）の他、高齢者を主に多世代交流を進める地域の福祉拠点として事業を組み立てた。9月には地域交流事業を実施した。
- ②品川区立心身障害者福祉会館地域生活支援センターは地域生活拠点マ

ネージャーを配置し、緊急時の24時間体制を整えながら、ハイリスク家庭の状態把握や関係調整を進めるとともに、事業所との連絡調整や関係を強化した。施設整備においては同館の外壁塗装、避難経路の整備が完了した。

- ③社会貢献活動の一環として、施設機能の地域開放を行い、本部施設、在宅サービスセンターで認知症カフェを開催した。地域住民の認知度が高まり、自治会等からの講習開催依頼に対応した。

(2) サービス管理

- ①平成27年度職員の利用者への暴言による虐待発生後、継続して東京都及び品川区に事後の対応を報告してきた。最終報告の確認を経たが、法人内では継続して研修その他において職員の利用者の人権意識やサービス意識の向上に向け対策を講じてきた。併せてサービス向上委員会、虐待防止委員会を定期的に開催して状況の把握と対応に努めるとともに、職員教育、人材育成、サービス点検を進め、法人の信頼回復に向け課題解決に取り組んできた。
- ②苦情解決第三者委員会・サービス点検調整委員会を適切に運営、委員からの助言等を利用者サービス向上に生かしてきた。また品川区サービス向上研究会の活動に積極参加、同会作成の品川区版サービス自己評価等を活用してきた。法人内では相互視察を実施、相互検証を機能させた。
- ③施設稼働率向上に向け、施設稼働率向上担当課長を引き続き配置、施設への支援体制を整え、経営会議で進行管理を行い、施設稼働率向上、収支改善の取り組みに努め、特別養護老人ホーム生活相談員連絡会を開催、サービス管理の課題の共有、解決策の検討を進めてきた。

(3) 組織管理

- ①法改定に沿い、理事会や評議員会、役員等の役割や権限、責任の範囲を確認、変更した。また評議員選任・解任委員会委員を選任、開催した。
- ②財務規律の確立に向け、当法人は会計監査人が設置義務となり、当年度より財務諸表に対する会計監査人による監査体制を整備、会計監査人に東京さくら監査法人を選任した。
- ③引き続き統括群を障害者群・高齢者群の2群に集約、効果的な施設経営の支援体制をめざし、情報共有、相互検証を進めてきた。また非常時等、統括施設長などによる施設長への支援体制、連絡調整を強化した。さらに施設長会やリーダー会も活発に活動し、法人業務の担い手が強化された。

(4) 人事・労務管理

- ①法人の職員給与、人事課題の解決に向けて人事給与制度検討委員会

を運営、段階的に広く職員に説明や意向確認の機会を設け、理解、協力を得つつ丁寧に進め、資格手当の創設、資格取得支援の増強を進めてきた。

- ②職員採用に関しては、看護師、保育士はもとより、介護・支援員等も含め採用困難な状況が継続している。年間を通じ、応募者に合わせ採用試験を随時実施（年間 23 回実施）、一方では職員の定着を進めるべく職場環境の整備を進めてきた。それでも入所施設は若干名の職員の不足を来す状態が続き、実際には人材派遣会社からの派遣や紹介により必要な人材確保することが常態化、人材確保を進めることにさらなる工夫が必要な状況。
- ③内定者に対しては内定者懇談会を年内に開催するなど、人材確保に努め、一方ではメンター制度による人材定着に向け努力してきた。
- ④職員の健康・衛生管理の充実に向け、引き続き健康支援室は総務課付として労務管理との連動、機能強化を進め、法人全体では安全衛生委員会を活性化させ、働きやすい職場作りを推進してきた。ストレスチェックは 2 回目を適正に実施することができた。
- ⑤品川区介護職員離職防止対策助成制度を活用し、職員の育成、離職防止、職場定着を推進してきた。

（5）人材育成

- ①引き続き、利用者の人権尊重、サービスの質的向上に向け、当法人の職員教育、人材育成、サービス管理他研修に力を入れてきた。一方では一般職員の監督職、管理職への昇格意欲に課題があることが鮮明となり、解決に向け法人全体で対策に取り組んできた。
- ②新採用職員の定着化向上に向け、メンター制度を採り入れ、新任初期の支援体制を強化した。
- ③キャリア段位制度と当法人の研修制度との連動性を研究し、アセッサー（評価者）の研修にリーダーを派遣、情報収集し検討してきた。
- ④職員教育の一環としてリーダー会主導で職員の接遇チェックシートにより、年に2回のセルフチェックを行った。

（6）地域交流事業

- ①地域交流事業（楽しいバザー五月祭り・しなふく紅葉祭）を 2 回計画通り本部施設で開催した。次年度からは年に 1 回10月開催となる。
- ②大井三丁目高齢者憩いの場で初の地域交流事業「こすもすパーティー」を開催した。

（7）施設整備等

障害者施設の防犯対策強化を東京都及び品川区の補助事業を活用して実施、非常通報装置等の設置を進めた。特に入所施設のかもめ園は建物外周に防犯カメラ設置、フェンスの更新、1階避難通路の侵入対策を実施した。

3. 会議

定款及び管理規程に基づき、また必要に応じ下記の会議を行った。

① 理事会 評議員会 監事監査

5月19日 監事監査 28年度事業報告・決算状況確認

5月26日 理事会 28年度事業報告、決算、定時評議委員会の招集等

6月16日 定時評議員会 計算書類、財産目録の承認、新役員の選任、
会計監査人の選任、役員等の報酬の決定等

6月16日 理事会 理事長、常務理事の選任

8月18日 理事会 会計監査人の報酬に関する規程の一部改正、評議
員会の招集

8月29日 評議員会 会計監査人の辞任及び選任について

9月22日 理事会 補正予算等

11月24日 理事会 補正予算、本部6階大会議室防犯対策工事の契約締結、
評議員会の招集事項他

11月24日 監事監査 年度中間期事業経過、収支状況報告

1月23日 理事会・評議員会 中間監事監査報告、補正予算他

3月23日 理事会 30年度事業計画、当初予算、人事案件等

② 経営会議

月1回、理事長が開催、経営方針を検討する場とし、毎回前月迄の稼働率・予算進行管理、経営分析、進行管理を行ってきた。また、必要に応じて臨時の会議を開催した。

③ 施設長連絡会

月2回開催、経営会議決定事項の周知、全体調整、情報の共有化を進めてきた。

④ 防火管理委員会

法人の消防計画に基づき開催した。

⑤ 安全衛生委員会

法令に則り、法人全体で月1回開催、職場の安全衛生向上を進めた。

⑥ 虐待防止委員会

法人全体で月に1回、重層的に各事業所も適宜実施した。

⑦ リーダー会

月1回開催、事務局他全施設のリーダーが全体調整、情報の共有化を進めてきた。その他法人の課題解決に向けた検討を進めてきた。

4. 研修

① 研修委員会を設置、研修体系の見直しを行い、さらなる職員の定着化、モチベーションの向上、人権意識の定着が進むように変革させた。

② 外部の人権研修等に積極的に参加し、その内容を事業所全体に周知させてきた。

③ しなふく向上発表会・研修報告会を実施、法人内の情報共有を進めた。

5. 防災

法人防災計画に沿って防災訓練・教育及び防災設備点検など実施した。各事業所、法人全体の災害時事業継続計画（BCP）に沿い管理者の緊急連絡・非常招集訓練を実施した。

法令に基づき法人内各事業所において、毎月、防災（避難、消火等）訓練実施。年に1回以上震災想定訓練を実施している。

6. 広報

法人広報紙「しなふくニュース」を地域、利用者に発行、職員向けに職員報を発行した。

7. 給食

利用者サービスの根幹をなす食事の質的向上を目指し、各拠点で給食会議を実施した。

平成29年度 法人研修事業報告

1. 総括

社会全体が人材不足の状態の中、ことに介護・福祉業界はさらに職員採用が困難な状況が顕著になっている。当法人においても人材確保、育成、定着が大きな経営課題となっている。事業の継続性を担保するためにも次代を担う人材育成、施設サービスの質的向上を目指し、各職員への階層別研修、新任時の研修を強化した。平成27年11月に生じた職員の利用者への虐待に対して継続して法人全体で人権擁護研修を実施、その他新任、階層別研修においても利用者の権利擁護、サービス検証の内容を盛り込んできた。また同様の外部研修にも精力的に参加し、参加者がその内容を他者に周知することを確実に行ってきた。また非常勤職員への研修も進化させ、より実効性が高い内容としている。今年度は研修委員会を開催、研修の方針、内容の検討を進めることができた。

(1) 部門別研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
新任職員研修	法人職員としての意識、誇りを醸成するとともに、基本的な知識や技術の習得を目指した。仕事での目標構築を側面援助する。	平成29年度採用職員および平成28年度中途採用の職員	H29年3月27-31日(月～金) H29年9月29日(金)	31名 21名
2年目職員研修	2年目を迎え後輩指導が出来るような話術、行動の意識付け、さらに法人理念を再確認する。	採用後2年目の職員	H29年 6月 7日(水)	23名
3年目職員研修	3年目職員としての自覚を深め、法人組織における役割を認識し、行動に責任を持つ機会とする。	採用後3年目の職員	H29年 6月9日(金)	16名
5年目職員研修	中堅職員としての組織での役割を明確に意識づけ、資質の向上を図る。	採用後5年目の職員	H29年10月6日(金)	16名
7年目職員研修	中堅職員としての更なるスキル向上の為、プレゼンテーション研修を実施し、伝達技術を磨く。	採用後7年目の職員	H29年11月10日、17日(金) どちらかに参加	31名
10年目職員研修	10年間のキャリアを振り返り、将来に向けての自己変革の契機とする。	採用後10年目の職員	H29年7月 7日(金)	4名
リーダー職研修	大学名誉教授で法人のサービス点検調整委員より分かり易い福祉記録について事例研修により、現場におけるリーダーとしての資質を高める。	リーダー職	H29年12月11日(月)	32名
中途採用職員研修	年度中途の職員を対象に組織体制及び研修体制並びに認知症の症状及び予防を学習し、法人の理念及び介護技術等の基礎的な内容の習得を目標とする。	平成28年度中途採用の職員	H29年 9月8日(金)	5名
非常勤職員研修	品川総合福祉センターの職員の一員として法人の理念を理解し、チームスタッフとしてそれを意識した行動ができるようにする。	非常勤職員	H29年10月12, 13日(木・金) どちらかに参加	29名

(2) 目的別研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
メンター研修	新規職員の相談役としてのメンターの役割や傾聴技術を学び、新人が職場に馴染み、独り立ちできるように支援する。	メンター担当等	H29年6月20日(火)	19名
管理職・リーダー級昇任研修	管理監督者およびリーダー級としての役割、意識を醸成し、幹部候補生としての意識付けと育成を図る。	昇任者	H30年3月9日(金)	4名

(3) 全体研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
しなふく向上発表会・研修報告会	各施設が取り組んでいるサービス向上の内容を発表し合い、相互に研鑽し合う。 また、法人を代表して外部研修を受講した職員が、内容を他の職員に共有する。	全職員	H30年 2月2日(金)	169名
人権擁護研修	法人の苦情解決第三者委員会委員長で大学講師でもある福祉関係に精通している講師に「権利擁護と人権」の演題で講演。人権を理解し、虐待のない職場環境を構築する。	全職員	H29年11月24日(金)	163名

平成 29 年度 安全衛生委員会事業報告

職員が心身共に健康に働けるように健康支援室（産業看護師）による相談支援等を実施し、法人における健康増進に向けた側面支援機能を定着させてきた。年間相談件数は約 200 件で例年と変化は見られず、相談内容は、メンタル面（うつ状態、人間関係、職場環境等）、身体面（疾患に対して、健康診断の結果に対して等）であった。新人および中途採用職員の面談を年 2 回個別に実施、福祉工場しながわ従業員の訪問相談を 2 ヶ月毎に実施した。新人および中途採用面談の結果は、職場環境改善の参考になるよう安全衛生委員会で報告した。

平成 27 年度よりストレスチェックを実施し、391 名（H27 年度とほぼ同数）がチェックシートを提出した。検査結果は、セルフケアに役立てるよう安全衛生委員会、および健康誌で啓発した。高ストレス者の申し出は 3 名、北品川クリニック産業医による面談（うち 2 名は職場環境によるストレス）を実施した。

労務災害は年間 8 件発生、毎月安全衛生委員会で事例を共有化、原因の検証や予防策を検討した。

「安全衛生委員会開催内容」

- 4 月：安全衛生委員会の役割、職員健康診断計画について
 - 5 月：ストレスチェックについて
 - 6 月：職員健康診断について、新人職員個人面談について、社会福祉施設の労災について、蚊の発生防止について、自律神経の乱れについて
 - 7 月：職員健康診断について、腰痛健診について、熱中症について
 - 8 月：腰痛健診について
 - 9 月：インフルエンザ予防接種、夜勤者健診、若年者子宮がん検診の概要
 - 10 月：インフルエンザ予防接種について、健康経営について
 - 11 月：感染症、インフルエンザ予防接種について、夜勤者健診、子宮がん検診について
 - 12 月：感染症、夜勤者健診、腰痛健診について
 - 1 月：感染症について
 - 2 月：感染症について、結核健診について
 - 3 月：感染症について、感染予防の基礎知識について、新人・中途職員の心理面について
- ・その他、以下を毎月議題としている
- ①各施設の感染予防について
 - ②安全職場をめざして（ヒヤリハット・労災発生報告）
 - ③より良い職場づくりの実践

平成29年度 地域福祉課事業報告

1. 総括

地域福祉課は、地域福祉力向上を目指し、地域交流活動・福祉教育活動・広報活動を実施してきた。新規事業の大井三丁目高齢者憩いの場では、多世代交流事業「ひなたぼっこ」の企画、運営を行った。また、法人の理念である「地域とともに」を実践すべく、「楽しいバザー五月祭り」「紅葉まつり」の開催や各種地域行事への参加を進めた。一方、平成30年度に向けて地域交流事業の見直しを行った。「こどものつどい」では、企業ボランティア、青少年ボランティア役立ち隊の協力で実施し好評を博した。

2. 事業内容

(1) 各種教室

施設利用者を含めたコミュニティ作りとして、定期的に教室・サークル活動を実施した。

〈各種教室実績〉

事業名	実施回数	講師（ボランティア）	延人数	登録者数	実施曜日・時間	
サークル	絵画教室	9	伊藤喜代美	80	11	第三日曜日 14:00～16:00
	生花教室	11	山田繁子（講師）	108	14	第二日曜日 13:00～15:00
	手話サークル 手話舞踊	11	森 みつえ	139	31	第一日曜日 13:00～15:00
小計	31		327	56		
コーラス会	コーラス会	21	中島はるみ	333	24	隔週土曜日 13:45～15:00
	八潮音楽祭	1	中島はるみ	7	7	平成29年12月16日
小計	22		340	31		
平成29年度総計	53		667	87		
平成28年度総計	57		852	86		

（8月は夏休みの為、休止）

(2) 地域交流事業

利用者が地域社会の一員として地域住民に一層理解を深めてもらえることを願い、交流の場として年2回の行事を実施した。（下記①及び②）

① 《楽しいバザー五月祭り》

日時 5月28日（日） 午前10時30分～午後2時30分

場所 品川総合福祉センター1階ロビー・駐車場

内容 物品販売、リサイクル品販売、利用者作品販売、模擬店、アトラクション等。

参加者数 約800名（利用者含む）

② 《紅葉まつり》

日 時 10月22日（日）午前10時30分～午後2時30分

場 所 品川総合福祉センター6階地域交流室・1階ロビー・駐車場

内 容 施設紹介パネル展示、センター利用者の手作り作品展示及び販売、模擬店、コンサート（利用者、ボランティア参加）

参加者数 約300名（台風の為、レイアウトを変更し食材の仕入れを調整し対応）

③ 《地域行事参加》

地域において開催された行事に、地域交流の一環として、利用者とともに参加した。

5月「八潮ファミリー運動会」

7月「八潮連合自治会主催：八潮まつり」

8月「八潮北地区避難所まつり」

9月「区社会福祉協議会主催：ふくしまつり」

12月「品川区障害者週間：記念のつどい」

(3) 《地域開放事業》

地域開放事業として、認知症を患っている方その家族、地域住民が集い、情報交換や相談支援を行い、相互に支えあう地域生活を推進することを目的に、認知症カフェ「オレンジカフェしなふく」を開催した。

日 時 6月17日（土）午後1時30分～午後3時00分

9月16日（土）午後1時30分～午後3時00分

12月16日（土）午後1時30分～午後3時00分

3月10日（土）午後1時30分～午後3時00分

開催場所 品川総合福祉センター 1階 喫茶しなっぺ

内 容 本来の認知症カフェの機能のみで、来場者との会話、望まれた相談等を行うことを想定したが2回目よりアロママッサージ、クリスマスリース作り体験等を行った。

(4) 福祉啓発・教育

① 《こどものつどい》

目 的 テーマ 「手作り工作」「昔遊び」

地域子ども達が、施設利用者との交流を持ちながら施設の理解や、高齢者・障害者への思いやりと優しい気持ちのあるかかわりを持つ機会となった。

日 時 平成29年7月29日（土）午前10時～午後12時

講 師 品川あそびの会 代表 大上尚之 氏

内 容 工作、昔遊びコーナーを体験した後 かき氷、わた飴、ポップコーンを利用者とともに楽しみ、交流を図った。

参加者数 保護者含め38名 利用者25名

(スタッフ) しながわ役立ち隊4名、区職員ボランティア1名、プルデンシャル生命保険㈱15名 地域福祉課 2名

② 《青少年体験ボランティア2017》

品川ボランティアセンターの事業である青少年のボランティア活動を受け入れた。

日 時 平成29年8月22日～24日

参加者数 八潮中央保育園 3名 福祉工場しながわ 1名
かもめ身体 1名 心身障害者福祉会館 1名

③ 《ボランティアのつどい》

当法人で活動しているボランティアに感謝し、さらに充実したボランティア活動を推進するために講演会を行い情報交換の場として開催した。

日時 平成30年3月3日(土) 午前11時～午後1時30分

講師 障害者地域活動支援センター逢 言葉のリハビリ教室

講師 萩原範子 氏

「利用者に寄り添い30年」

演奏 コカリナカフェ アンサンブル

参加者数 ボランティア77名 利用者12名 来賓14名

講師 1名 職員38名 合計 142名

④ 《教育機関からのボランティア体験学習・見学の受け入れ》

*教育機関からの福祉教育実践の場として、ボランティア体験学習を受け入れた。

学校と各施設との連絡調整等を行った。

・明晴学園	8月29日～30日	職場体験	1名
・玉川聖学院	10月25日～26日	職場体験	4名
・品川区大崎中学校	1月25日	福祉講座	86名

⑤ 《ボランティア講座の実施》

平成30年3月20日 受講者 16名

目的 植物や園芸手法を利用するリハビリテーションとしての園芸療法を学び、福祉援助や地域ボランティアへ繋がるボランティアの育成を行う。

内容 「園芸療法とは」

講師 澤田みどり氏

NPO法人 園芸療法研修会代表理事

恵泉女学園大学人間社会学部特任准教授

(5) 広報活動

〈しなふくニュース〉(年4回 各1, 800部発行 No.131～No.134)

品川総合福祉センターの広報紙「しなふくニュース」を編集、発行した。

〈ボラボーラ〉(年4回各 400部発行)

平成7年12月から、八潮団地向けミニ情報(B5サイズ1枚)として発行。

内容は、お知らせ、ボランティア募集等。

(6) 募金活動

赤い羽根共同募金は10月2日に「街頭募金」を大井町駅・旗の台駅・青物横丁駅で実施した。

東日本大震災復興支援・熊本地震復興支援募金を随時実施した。

(7) その他 〈器具・器材などの貸し出しサービス〉

地域行事・関係機関などに対して、地域交流の一環として協力。

綿あめ機、ポップコーン機、焼き鳥機、かき氷機、餅つきのセット、テント、椅子、長テーブル、音響装置、車椅子、他。

3. 事務局活動

①後援会事務局

- ・後援会役員との連絡調整
- ・幹事会、総会の開催

- ・会費、寄付金、募金箱などの会計処理
- ・後援会ニュース年2回発行
- ・その他必要な事務

②連合家族会事務局

- ・連合家族会役員との連絡調整
- ・その他必要な事務

4. ボランティア

ボランティアの受け入れ窓口として、施設とボランティアとの連絡調整をした。

〈ボランティア活動実績〉

[注] 人数・延べ日数は、月の合計を12か月分集計したもの

施設	平成29年度		平成28年度		平成27年度	
	人数	延べ人数	人数	延べ人数	人数	延べ人数
かえで荘	207	357	217	327	284	355
かもめ(身体)	107	173	102	179	82	144
かもめ(知的)	199	433	203	444	216	463
さつき	0	0	0	0	0	0
サンかもめ	60	135	68	116	59	95
八潮在宅サービスセンター	313	764	339	771	211	634
大井在宅サービスセンター	305	745	277	611	299	692
中延特養	414	705	410	935	42	96
中延在宅サービスセンター	255	708	308	905	316	901
北品川つばさの家					20	20
福祉工場しながわ	0	0	0	0	0	0
心身障害者福祉会館	261	412	283	461	216	321
八潮南特養	26	225	34	249	26	120
大井三丁目高齢者憩いの場	279	331				
地域福祉課	373	393	313	368	212	243
合計	2,799	5,381	2,554	5,366	1,983	4,084

平成29年度 かもめ園(知的障害部門)事業報告

1. 総括

平成29年度は利用者2名（男性1名、女性1名）の退所があり、入所も男性、女性それぞれ1名を受け入れ、在員数51名で推移した。また、4月28日より空床を使用し緊急ショートステイを受け入れ、区と調整のうえ3月31日までほぼ1年間対応した。

前年度より、利用者の支援の状況によって3フロアで対応している。2階北では経管栄養（胃ろう）や常時の痰の吸引などの医療対応のほか、健康管理や身体介助などを重視した支援を行なった。またそれぞれの利用者の日中活動とともに、高齢化の対応と機能維持向上のため、利用者の機能に合わせた運動、リハビリ等を中心とした活動も行なった。

サンかもめ、さつき等と連携し、生活介護、就労支援等の通所利用者の活動の充実を図った。

定期的に虐待防止委員会を開催した。利用者の人権を重視し適切なコミュニケーションを図り、支援の向上を目指して意見交換を行なった。

2. 利用者状況(平成30年3月31日現在)

(1) 利用者状況 (単位:人)

	性別および事由	合計	28年度
退所者	女性1名、男性1名 死亡	2名	女性1名、男性2名
入所者	女性1名、男性1名	2名	女性1名

(2) 障害区分 (単位:人)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	0	1	5	12	9	27
女性	0	0	0	6	8	10	24
合計	0	0	1	11	20	19	51

(3) 年齢別 (単位:人)

年代	20	30	40	50	60	70	80	90	合計
男性	1	1	7	7	9	1	1	0	27
女性	1	3	2	8	3	5	1	1	24
合計	2	4	9	15	12	6	2	1	51

・平均年齢 男性55.1歳 女性59.3歳 全体57.1歳 (平成28年度56.8歳)

(4) 関係機関 (単位:人)

品川	大田	江東	葛飾	足立	北	台東	八王子
42	3	1	1	1	1	1	1

3. 支援経過

(1) 支援全般

「個々人が希望する暮らしの実現」を方向性に、個別支援計画に則り支援を進

めた。職員 2 人～3 人の複数担当制とし、医務、給食等、多職種と連携した。また日常の活動を重視し、利用者本人の要望に沿った計画を立て、生活の中の楽しみを拡大していくように対応した。そして、高齢化や心身の変化を見逃さず、迅速に支援を行なった。

(2) 生活介護（日中活動）

①課題別活動(小グループ)

週 2 日(月・水曜日)に小グループを編成し、個々の希望、ニーズに合わせた内容で活動した。(単位:人)

課題	資源リサイクル	運動	わいわい体操	簡身体操
参加数	6	7	12	10
課題	創作班	調理	個別班	
参加数	4	9	2	

②課題別活動(個人)

毎週 2 回(火・木曜日)各利用者の活動(買い物・創作・身辺整理・調理等)を設定し、職員とマンツーマンでかかわる時間とした。

③他のサービスを利用

サンかもめ(生活介護)、さつき(就労継続支援 B 型サービス)へ日中に通所した。通所先の各種行事等にも企画から参加している。

<利用人数> (単位:人)

	就労継続 B さつき	通所生活介護サンかもめ	合計
男性	2	2	4
女性	2	2	4

(3) 施設入所支援

利用者の希望に沿って、散歩や、理美容などの外出の他、季節に応じた生活行事やレクリエーションなどを企画実施し、サークル活動の一部見直しを行なった。

食事形態、排泄の支援方法等については、加齢による変化、身体機能の変化等に的確に対応できるよう、担当職員を中心に看護師、栄養士とも連携し、利用者の負担の軽減を図った。

(4) サークル活動 (単位:人)

	実施回数(年間)	参加人数(延)
コーラス	19 回	302
生花	5 回	48
茶道	12 回	144

(5) 行事 (単位:人)

行事名	実施日	内容	参加人数
お花見	4/2	新年度顔合わせ。観桜	49
第 1 回保護者会	4/29	事業計画説明。預り金確認	34
さつき祭	5/28	バザー・模擬店	49

個別旅行	月 1 回～2 回	一泊・日帰り旅行	51
納涼会	8/27	流しそうめん、他	50
バイキング食	年 4 回	希望献立に因る会食	51
ふれあい寄席	10/19	落語鑑賞	5
紅葉まつり	10/22	模擬店・生け花	50
利用者保護者面談	10/29～11/5	個別支援中間点検・預り金確認	38
遠足	10/25	みかん狩り	51
第 2 回保護者会	12/23	事業報告・預り金確認	35
クリスマス食事会	12/23	家族・ボランティア感謝の集い	124
初窯	1/28	新年初手前・会食	12
送別会	3/24	年度末納会	48
八潮音楽祭	12/16	コーラス	7
利用者保護者面談	3/21～26	個別支援計画説明	37

(6) 健康管理

定期健康診断を実施し、健康の維持と疾病の早期発見に努めた。1名インフルエンザの診断を受けたが、その後他の利用者に影響はなく、その他の感染症の発生もなかった。他に 10 名（外科 2、内科 4）の入院があり、退院時の病院との連絡調整により、かもめ園での確に支援を行ない、リスクを軽減できるよう対応した。

通院・入院・嘱託医受診。

(単位:人)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
通院	30	20	28	36	22	22	13	22	21	17	15	21	267
入院	0	0	2	4	0	1	1	1	3	1	2	2	17
受診	10	11	9	18	31	42	31	13	19	13	7	10	214

(7) 給食

毎月第 3 水曜日に給食会議を開催、希望献立などについて検討し、内容の偏り等についても事業者と調整しながら、利用者の満足できる食事内容、食事形態での提供に努めた。選択食は毎週水曜日に実施したほか、バイキング食（年 4 回）は、テーマを決めて地元の食材など活かし「ハワイ&沖縄」「昭和の居酒屋」「帝国ホテル」「北海道・東北」などを実施した。普段食べられない食材などもあり、好評だった。

特別食提供状況(平成 29 年 3 月 31 日現在)

疾病・年齢・身体機能に対応した特別食を実施した。

(単位:人)

きざみ食	粗きざみ食	ペースト食	制限食 1400cal	制限食 1600cal
12	12	1	9	3

(8) サービス点検調整委員会

毎月 1 回委員による利用者との面談を開催、日々利用者の抱えている様々な思いを聴取し、委員と施設との連携を図りながらサービス向上に取り組んだ。

(9) 苦情解決第三者委員会

平成 29 年 8 月と平成 30 年 1 月に開催。利用者、家族への対応、コミュニケーションのあり方や虐待の防止の助言、指導を受けた。また、利用者や家族との信頼関係の構築などについて、委員から指導、助言を受けた。

(10) 東京都福祉サービス第三者評価事業

家族アンケートおよびヒヤリングのみ実施。概ね「施設の対応に満足」との評価であったが、サービスの質の向上が継続課題となった。

(11) サービス改善向上委員会

「利用者の人権、生活を守るためのチェックリスト」を定期的実施して、自己評価を行った。職員は常に利用者の対応を見直すことができた。

4. 研修・会議

(1) 研修

法人研修計画に基づいた研修及び職員個々が研修計画を立て、支援業務に直結する各種研修に参加した。

(2) 会議

職員会議、ケース会議、生活会議、給食会議、役職会議、個別支援計画会議、中間点検、事業計画会議等を実施した。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

10 月、3 月に個別支援計画に沿って個別面談を行い、支援内容を検証、確認した。

(2) 地域交流

地区夏まつり、ファミリー運動会、八潮音楽祭等へ参加した。近隣駅コンビニエンスショップからの資源回収、軽作業（箸袋作り）の団地内食堂への納品等を行ない、地域との繋がり強化を図った。

(3) ボランティアの協力

サークル活動指導、コーヒー提供、傾聴、調理活動補助等、長く継続的にかかわっていただいている。適切に連携が行なわれ、利用者の状況や気づいた点、今後の活動の提案などもあり、利用者の満足につながっている。

6. 短期入所事業(定員 3 名)

利用者実数(人)・延べ利用日数(日)・稼働率(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	利用実数
男性	22	17	16	19	16	21	18	19	19	17	13	18	215
女性	10	10	9	11	8	9	9	9	7	7	9	12	110
児童	2	3	4	2	4	1	1	1	1	1	1	3	24
計	34	30	29	32	28	31	28	29	27	25	23	33	349
利用日数	154	168	168	188	163	175	154	174	181	166	160	175	2,026
年間平均稼働率	184.9%						年間平均稼働率 28 年度 154.4%						

7. 防災

法人の防災計画に従い、防災訓練、防災教育を行った。事業継続計画（BCP）に基づく訓練を実施した。

平成29年度 かもめ園（身体障害部門）事業報告

1. 総括

利用者の重度、高齢化に伴い、夜勤体制を2名配置から3名配置へ変更する等業務の見直しを行った。また、医療的処置が必要な利用者も増加したため、看護師体制の強化を行い、早期発見・早期治療に繋げ、利用者の負担軽減を行った。

そして、利用者の人権擁護と虐待予防は、引き続き、虐待防止委員会の開催や研修の参加等を行い、意識定着を推進した。施設にて事業説明会を開催し、家族の集いでは、施設からの情報発信を行い、家族との連携強化を推進した。疾病の進行や長期入院等による体力の減退等の理由により退所するケースが多くなった。感染症に関してインフルエンザの罹患判定検査を実施し、適切な感染対策を実施し、まん延防止を行った。また、東京都の補助金制度を活用し、防犯対策整備を推進した。

在宅利用者について卒後対象者の受け入れを視野に入れ、新年度に向けて調整を実施した。

短期入所については、緊急利用に対して柔軟に対応し、他区からの緊急利用を受け入れ、ニーズに応えた。東京都福祉サービス第三者評価は、家族調査及び利用者調査を実施し、サービスの向上に努めた。

2. 利用者状況（平成30年3月31日現在）

(1) 入退所状況（単位人）

	性別及び事由		合計
入所者	女性	在宅より入所	2名
		他施設より	1名
退所者	女性	死去	3名
		療養型病院等	2名

(2) 障害区分（単位:人）

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	1	9	3	2	10	25
女性	0	0	2	6	8	5	21
合計	0	1	11	9	10	15	46

(3) 年齢別（単位:人）

年代	20	30	40	50	60	70	80	合計
男性	1	2	4	5	8	4	1	25
女性	0	1	6	6	2	5	1	21
合計	1	3	10	11	10	9	2	46

・平均年齢 男性 58.3歳 女性 57.7歳 全体 58.00歳（平成28年度 58.6歳）

(4) 関係機関（単位:人）

品川	世田谷	中野	足立	江戸川	江東	東大和	町田	合計
39	1	1	1	1	1	1	1	46

3. 支援経過

(1) 支援全般

利用者一人ひとりの個別ニーズを汲み取るため個別面談を年2回実施し、個別支援計画に反映させた。個別支援計画の実行については個別支援時間の活用や外出支援等を工夫し、利用者本人のニーズに応えられるようにした。

(2) 生活介護日中活動

①生産活動

能力、適性に応じて2つのグループに編成し工賃を支給した。

参加人数 (単位:人)

	軽作業	七宝・創作	合計
男性	12	1	13
女性	6	5	11
合計	18	6	24

②療護活動

リハビリテーション、レクリエーションの他、リハビリにヨガを取り入れた運動を講師の指導のもと、月一回実施し、利用者に好評を得た。

参加人数 (単位:延べ人数)

	ヨガビリー	音楽セラピー
男性	101	86
女性	104	106
合計	205	192

③他サービスの利用

同一法人内の他施設が実施するサービスを利用した。

参加人数 (単位:人)

	男性	女性	合計
就労継続支援 B型さつき	4	1	5

(3) 施設入所支援

年中行事や余暇支援として各サークル活動を行い、潤いのある生活を目指し、支援した。園外レクリエーションでは少人数での旅行を企画し、個々のニーズに合わせた外出支援を実施した。単独外出が難しくなった利用者のニーズに応えるべくお出かけ便を継続した。

(4) サークル活動

(単位:人)

	実施回数	参加人数(延)		実施回数	参加人数(延)		実施回数	参加人数(延)
書道	9	21	勉強会	10	157	カラオケ	11	166
料理	12	132	言語	9	112	お出かけ便	35	79
園芸	12	63	パソコン	19	77			

(5) 行事

行事名	実施日	内容	利用者参加人数
お花見	4/4.6	公園にて花見と食事	34名
スポーツ大会①	5/28	駒沢公園	2名

スポーツ大会②	6/3	駒沢公園	6名
さつき祭り	5/28	バザー・模擬店	39名
日帰り旅行	随時	外出支援	23名
一泊旅行	随時	外出支援	18名
七夕	7/7	七夕飾り他	21名
納涼会	8/15	食堂	36名
	9/5	花火（駐車場）	32名
ふれあい寄席	10/19	落語鑑賞	8名
紅葉まつり	10/22	作品展示・模擬店	36名
クリスマス懇親会	12/10	会食（家族・ボランティア招待）	40名
新年会	1/4	新年顔合わせ	35名
初詣外出	1月随時	池上本門寺・川崎大師	24名
節分	2/3	豆まき	34名

(6) 健康管理

嘱託医による受診、歯科往診等を定期的に行った。定期健康診断を実施し、インフルエンザ予防接種は37名に実施した。体調変化による通院件数や長期入院が増加した。インフルエンザには数名が罹患したが、判定検査を早期に行った為、拡大はしなかった。利用者の健康面について家族に来所して頂き、直接嘱託医から話を聞く機会を設けた。

通院・入院・嘱託医受診状況（単位人）

日	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
通院	53	66	66	64	68	68	62	61	58	60	50	54	730
入院	7	5	4	4	2	1	1	0	1	3	3	3	34
受診	51	54	53	58	61	68	66	90	53	76	77	113	820

(7) 給食

嚥下困難な方へなめらか食、ペースト食も提供した。月一回給食会議を実施し、行事食の一つとして年3回のバイキング食事会を休日の昼食時に企画をするなど、新しい試みを実施し、利用者から好評を得た。

特別食支給状況(疾病・年齢・身体機能に対応した特別食) (単位:人)

減塩食	制限食 1300Kcal	制限食 1400 Kcal	制限食 1600 Kcal
7	1	2	3
キザミ食	なめらか食	粗キザミ食	ペースト食
3	3	20	1

(8) サービス点検調整委員会

毎月1回、希望者を中心に委員との面談を実施。一人ひとりの状況確認とより良い支援のあり方について助言を得てきた。

(9) サービス評価

東京都福祉サービス第三者評価において利用者調査を受審し、サービス向上に取り組んだ。

(10) 苦情解決第三者委員会

平成29年8月と平成30年1月に開催。8月の委員会では、委員から医師

と家族とのコミュニケーションを強化するよう助言をいただいた。

(1 1) サービス改善向上委員会

「障害の重度化・高齢化対策」「リスク管理」「医療的ケアと楽しい食事」「虐待予防」の四つのテーマに絞り課題解決に向けての取り組みをした。

(1 2) 虐待防止委員会

毎月一回職員会議の後に実施。利用者支援状況の確認を行ない、職員個々の人権意識を高めてきた。

4. 研修・会議

(1) 研修

外部研修として東京都・全国社会福祉協議会・品川区社会福祉協議会等の主催の研修に多く参加した。施設内交換研修も推進した。

(2) 会議

職員会議、ケース会議、役職会議、給食会議、生活会議、生産活動会議などを開催した。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

事業説明会を6月に実施し、事業内容を説明した。又12月の施設行事前に家族の集いを開催し、施設からの情報発信を行った。その後、行事参加を促進し交流を深めた。また、利用者の健康管理や生活面に関して随時連絡や手紙の発送など、情報共有の強化を行った。

(2) 地域交流

八潮祭、福祉まつりなど区内各イベントへの生産活動の作品販売を実施した。区内大崎中学校での福祉教育講座を実施し、利用者2名がパネラーとして出席した。

(3) ボランティアの協力

サークル活動、理髪、外出支援等多くの支援でご協力をいただいた。

6. 短期入所事業(定員2名)

利用者実数(人)・延べ利用日数(日)・稼働率(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	利用実数
男性	6	7	6	7	5	7	5	7	7	5	5	5	72
女性	7	7	8	9	7	8	8	8	4	4	5	4	79
児童	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
計	13	14	14	16	13	15	13	15	11	10	10	9	153
利用日数	63	79	70	74	59	66	59	78	63	52	64	51	778
年間平均稼働率	29年度 106.6%					年間平均稼働率					28年度 144.1%		

7. 防災

法人本部の防災計画に従い、防災訓練、事業継続計画(BCP)訓練を行った。

8. 環境整備・備品購入

環境整備	整理棚の扉改修
備品購入	施設車輛・ギャッジベッド・ノートパソコン

平成29年度 サンかもめ事業報告

1. 総括

利用者一人ひとりに応じた自己実現や自立を目指し、事業を展開した。内容としては事業所内を中心とした通常の活動や日帰り旅行など外部での活動を行い、様々な体験から生活の幅を広げる機会を設けた。また、リサイクル活動を継続し、地域とのつながりを意図し事業を進め、広報紙を通して地域の福祉啓発が進むように努めた。品川区障害者芸術活動支援事業により、月一回、芸術創作活動、アールブリュットを継続実施した。

年間で6名の方が契約を終了し、その後の新規利用者補充が進まず稼働率が低迷した。年間平均稼働率は89.9%であった。年度末に新規利用者が利用開始、登録数34名と数字を戻している。

2. 利用者状況(定員 30人) 《平成30年3月31日現在》

(1) 年齢構成 (人)

	平成29年度		平成28年度		平成27年度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
18～20代	6	7	7	6	7	7
30代	6	5	7	5	7	6
40代	2	1	2	2	2	3
50代	0	2	1	1	1	1
60～70代	4	1	4	1	4	1
平均	37.7歳		37.7歳		36.3歳	

(2) 障害区分 (人)

	平成29年度					
	男性	女性		男性	女性	
区分1			区分4	7	3	
区分2		1	区分5	4	2	
区分3	3	5	区分6	4	5	
			合計	18	16	

(3) 在所期間状況 (人)

	1年未満	1～2年	2～5年	5年以上	10年以上
利用者数	4	0	2	10	18

3. 支援経過

個別支援計画に沿って、自己表現による開放感や達成感、仲間との一体感を感じられるような創作、運動、音楽、芸術などの活動を支援し、地域との繋がりを意識したリサイクル活動を継続した。

(1) 日中活動による収益（円）＊平成30年3月31日現在

作業	資源回収	数珠	その他	合計
収入	18,663	500	0	19,163

(2) レクリエーション・行事

	内容	回数
施設旅行	羽田空港・しながわ水族館	9回
地域参加行事	ふくしま祭り (9/9)	1回
レクリエーション	ダンス 調理 創作 スポーツ大会 季節行事 (七夕、かき氷、ハロウィン、豆まき) クリスマス忘年会 年度納会	48回

(3) 健康管理

嘱託医による応診を毎月1回、健康診断を年1回実施、歯科医による口腔ケアは毎月2回、通所時バイタルチェック、体重測定を毎月1回実施した。
(身長測定は年に1回) インフルエンザ予防接種を年1回実施した。

(4) 給食

委託業者は一富士フードサービス(株)で継続した。誕生日リクエスト食(34回) 選択メニュー(年12回)バイキング食(月2回)を実施した。又必要に応じて、食形態の変更や高カロリー食、制限食、代替食、減塩食等の対応をした。

(5) 送迎サービス

普通車両 28名	リフト使用6名	合計34名
----------	---------	-------

(6) 延長支援事業

利用者実数	年間実施日数	年間利用延べ時間	年間送迎利用数
13名	208日	1,084時間	517回

4. 会議・研修

支援・職員会議毎月2回、モニタリング会議(支援点検半年毎)、給食会議毎月1回を実施。

外部研修、法人内階層別研修、しなふく向上発表会、研修報告会に参加。

5. 家族・地域支援(ボランティア・実習生受け入れ)

(1) 保護者会(年2回)、保護者参加行事(年度納め会)を実施。

(2) 福祉関係実習生7名、教職介護体験実習3名

定期ボラ(配膳補助など)を4名受け入れる。活動延べ日数121日

6. 防災

施設防災訓練(避難誘導等)12回(内地震想定6回、館内合同防災訓練2回)

7. 虐待防止への取り組み

虐待防止委員会の中で利用者の人権尊重について確認、支援方法について振り返りを実施し、職員の人権意識を高めた。

平成29年度 鮫洲なぎさの家事業報告

1. 総括

世話人の異動もなく、安定した生活支援を進める事が出来た。

一方、利用者の家族が高齢となり、帰宅が難しくなっている中、休日の過ごし方についても、支援の必要性・重要性が高くなってきた。特に外食や外出、行事等への参加の促進、話題性の提供により、社会性が保たれる部分が大きく、利用者には、近隣散策が好評であった。

また、夏のバーベキューを通じて地域の方との交流も定着してきている。地域の防災訓練、東大井全体での防災訓練にも参加できた。

食事の提供は、宅配業者から食材料を購入しての、メニューに従い決められた調理による提供が安定してきた。また、外食の実施により、少しずつ体重減少の結果が出て来ている。健康管理を考え、カロリーや栄養価管理がより重要であり、最適な食事提供を今後も継続していく。

2. 利用者状況（平成30年3月31日現在）

(1) 年齢

年齢層	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	平均年齢
人数	1	0	1	4	0	1	50.0歳

(2) 入所元 (人)

入所元	自宅	入所施設	他グループホーム	計
人数	4	1	2	7

(3) 日中就労、通所先 (人)

通勤・通所先	就労継続支援A型事業所	就労継続支援B型事業所	生活介護事業所
人数	1	5	1

(4) 入退所

9月に1名退所。翌10月に1名入所。

3. 支援経過

(1) 支援全般

世話人と利用者の関係作りや生活も安定してきており、出来る限り、自主性を尊重して、自己選択・自己決定に基づいた日課作りを進めた。

利用者個々の課題に対しては、個別面談、全体ミーティングを実施した。利用者への対応としては、傾聴に努め、必要な助言を行った。

(2) 食事

利用者の体重増加、栄養管理等を考慮して、民間業者の食材の宅配により食材料を購入、そのメニューに従って、現場での食事作り、提供を継続実施した。安価な食材費での提供と栄養管理的にも行き届いており、その効果は健康面で徐々に出て来ている。一方では多様な食事・嗜好に対しては、近隣の外出で食事機会を設けた。また、誕生日でのお祝いも継続して実施した。これらにより、栄養面での健康管理と豊かな食事、気分転換を含めた食事という両面において有意義な食生活であったと考えている。

(3) 生活・行事等

個々人の生活リズムを尊重した基本的な生活支援を行い、個人の生活を大切にしながら掃除や洗濯等の基本的な生活要素の自立支援及び余暇支援等を行った。他、余暇活動として、カラオケ、ドライブ（お花見会、初詣、横浜中華街外出）を実施した他、区内各法人のお祭り等にも参加した。

(4) 健康管理

健康管理として、持病を抱えている利用者3名の定期通院に付添し、担当医に日常の経過報告を正確に伝え、治療を進めるとともに、服薬管理や健康管理への助言、支援を行ってきた。また、区民検診、インフルエンザ予防接種は全員実施した。

4. 会議・研修

東京都グループホーム研修会に参加。個別支援計画打合せ会を実施。

5. 就労、通所支援

(1) 各通所施設等への職場訪問を行い、先方事業所との連絡を密に、通所、就労状況の把握と諸課題解決への調整、連携に努めた。

(2) 施設通所利用者には施設の保護者会や行事に世話人が出席し、連携を図ってきた。

6. 家族・地域との関わり

保護者会を年に1回実施した他、出席できない家庭には、「家庭訪問」や「個別面談」を実施した。必要に応じて家族と連絡をとり、課題の解決を図ってきた。また、地域行事として「バーベキュー」を地域住民などを招いて実施、定着してきた。

7. 安全管理

避難訓練（防災・震災）を年間12回実施。

地域の町会の防災訓練に参加。

以上

平成 29 年度 さつき事業報告

1. 総括

平成 29 年度の作業は、軽作業では、昨年度から引き続き、品川区からの委託販売事業ウェディング会社の砂袋入れ、アロマポット洗浄、トマト箱折りが安定した受注となっている。ダクトの説明書折り及び封入作業については、会社の事業展開の都合により昨年度同様減少となっている。また、秋に化粧品用箱のシール貼り等の委託を多く受ける。

花ふきんは福祉ショップでの売り上げやバザー、個人注文で安定した売り上げとなっている他、都庁ショップの KURUMIRU 出店を継続している。(都内 3 店舗) 安定した受注により、作業量の調整・工賃の確保に努めている。

クリーニングでは、法人内のリネン、区立保育園等は順調。ハイウォッシング(株)(美容室タオル)の受注が安定的、大量にあり。作業量、収入共に増加傾向。また、新規で数社から外部委託を実施している。

喫茶売店については、各メーカーの価格上昇や冷凍食品の仕入れ先が少なくなってきたり、新規開拓にあたっている。また、他機関からの助言を受け、販売商品や陳列方法の変更等を実施した。

利用者状況では新規の利用はあったが、高齢による退所、長期入院や体調不良の影響で、月平均稼働率 92.2%となった。

2. 利用者状況

(1) 主事業所(八潮団地 8 号棟、軽作業他)

①現員 24 名のうち 13 名が身体障害者、9 名が知的障害者、3 名の重複障害であり、男性 15 名、女性 9 名。平均年齢は 51.3 歳と高齢化が顕著。

②4 月に 1 名、5 月に 1 名、3 月に 1 名が入所。

③身障手帳所持者 16 名、1 級 5 名、2 級 6 名、3 級 2 名、4 級 2 名、5 級 1 名、6 級 0 名、愛の手帳 2 度 4 名、3 度 3 名、4 度 4 名である。

④在所期間は、平均で 10.2 年程度である。

(2) 従事業所(法人本部 1 階、クリーニング、喫茶、売店)

①現員 22 名が知的障害者、1 名が重複障害であり、男性 11 名、女性 12 名である。

平均年齢は 44.7 歳と高年齢化が進んでいる。

②愛の手帳 2 度 5 名、3 度 13 名、4 度 4 名である。

③在所期間は、平均で 16.0 年程度である。

3. 支援全般

(1) 売り上げ、工賃実績

売り上げ

単位：円

作業班	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
軽作業	5,372,392	4,764,740	4,964,043
軽作業(清掃)	296,400	296,400	296,400
自主製品	1,213,011	3,312,975	2,873,900
喫茶・売店	22,973,404	23,830,106	24,255,973

クリーニング	29,766,222	27,782,707	30,069,868
合計	59,621,429	59,986,928	62,460,184

工賃実績

単位：円

	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
軽作業・支給総額	4,721,842	4,439,150	4,233,281
軽作業・最高額	15,351	14,950	14,803
軽作業・月平均額	7,809	7,012	6,651
クリーニング・支給総額	9,523,998	8,916,713	8,334,081
クリーニング・最高額	35,910	32,868	32,868
クリーニング・月平均額	21,591	18,735	18,958

(2) 日課

時間	日課	時間	日課
8:30	利用者通所	13:00	作業開始
9:00	朝礼・体操	14:30	休憩（水分補給）
10:30	休憩（水分補給）	14:45	作業開始
10:45	作業開始	16:00	作業終了
12:00	昼食・休憩	17:00	掃除作業終了

(3) 余暇支援活動（旅行、行事、生活活動）

【旅行】	(日帰り)		
	5/12	葛飾柴又	4名
	6/9	葛飾柴又	4名
	10/13	墨田水族館方面	3名
	(宿泊)		
	6/22～23	山梨方面	5名
	10/26～27	伊豆方面	3名
	11/9～10	伊豆方面	5名
	12/7～8	鴨川方面	5名
【行事】			
(バス旅行)	3/16	山梨方面	28名
(生活活動)	9/2	江戸東京博物館	19名
	1/13	調理活動	10名

(4) 健康管理

- ①定期健康診断は年1回実施、聴打診、尿検査の他、胸部X-P、血液一般、心電図等実施。
- ②嘱託医による健康相談を毎月1回実施（主事務所は第2火曜日、従事業者は第3火曜日）。

(5) 食事

月1回選択食を実施。

栄養給与表(日本人の食事摂取基準 2015年版普通にて算出)

エネルギー	脂 質	タンパク質	カルシウム	鉄
439kcal	11.2g	17g	148mg	2.4mg
レチノール当量	ビタミン B1	ビタミン B2	ビタミン C	食塩
130 μ g	0.24mg	0.24 mg	28mg	2.1 g

(6) 就労支援その他

就労継続支援 A 型等への移行、一般就労等 なし

また、港特別支援学校より1名、明晴学園より職場体験実習で1名を受け入れた。

4. 会議、研修

(1) 会議

①職員会議を毎月実施、その他個別支援計画会議、アセスメント会議、作業評価会議、隔月で勉強会等を開催。

②サービス向上委員会、虐待防止委員会を職員会議後に開催。

(2) 研修

日 程	内 容	職 員	主 催
5/24	これからの総合支援法を考える	1	東京都発達支援協会
6/21	高次脳機能障害者相談支援研修会	1	東京都福祉保健局
7/20/	実践ステップアップ研修 (相談を受ける力)	1	東京都ボランティア市民活動センター
11/21,22	チームリーダー研修	1	全社協
2/11	発達障害についての医療従事者向け講習会	1	東京都福祉保健局
2/25	発達障害についての医療従事者向け講習会	1	東京都福祉保健局
3/3	思春期の発達障害 (シンポジウム)	1	東京都発達支援センター

5. 実習生

実習生は介護福祉士、保育士の実習生を受け入れた。

大学等から青山学院短大、有明教育芸術短大、品川介護専門学校等9名の学生を受け入れた。

6. 防災

主事業所はピッコロ・にじのひろば八潮と共同して防災訓練等を実施した。
従事業所は本部内の施設と共同で防災訓練等を実施した。

7. 家族との関わり

保護者会を増やし、家族や、本人に施設運営内容の説明会、連絡事項、相談支援等の中身について情報提供等を実施した。

平成 29 年度 福祉工場しながわ事業報告

1. 総 括

利用の関係では、5月末に1名退所している。

清掃事業は、ふれあい作業所から34カ所公園清掃を請負、臨時で清掃を請負った。パークビュー戸越、目黒個別指導学院、マイスクールは定着した。清掃単価は変わっていないが、年度内に単価交渉し次年度は平米単価が微増となっている。

製パン事業は、近隣学校への販売が始まり、収入は微増となっている。

製陶部門では、受注は昨年度同程度であるが、年度内に単価交渉し次年度は単価増となっている。また、環境整備・改善に努めている。

就労会計全体では、昨年度比で大幅な改善となっている。

事業所では、事業所内研修、東社協、知的発達障害部会研修等、職員学習会などの機会を通して障害者差別解消法、人権意識の向上に努めた。

品川区実地検査を3月に実施。文書指摘なし。

2. 利用者状況 (平成 30 年 3 月 31 日現在 単位：人)

(1) 年齢構成 (平均年齢 43.5 歳)

	10 歳～	20 歳～	30 歳～	40 歳～	50 歳～	60 歳～	計
男	0	2	7	14	3	2	28
女	0	0	1	6	4	0	11

(2) 在所期間状況 (平均在職 11.8 年)

	0～2 年	3 年～	5 年～	10 年～	計
男	1	4	6	17	28
女	0	0	2	9	11

(3) 障害区分別 (愛の手帳)

	2 度	3 度	4 度	計
男	0	13	16	29
女	0	6	4	10

(4) 採用実績

新規採用人数	
男	女
0	0

(5) 退職者等 1 名

	支払い総額
平成 29 年度	58,754,256
平成 28 年度	56,708,012
平成 27 年度	54,123,728

(6) 実施機関：品川区 38 名、
江東区 1 名

(7) 賃金支払い実績(単位：円)

平成 29 年 10 月 1 日東京京都最低賃金改定、時給 932 円から 958 円に改定。

3. 支援・業務経過

(1) 支援全般

従業員1人ひとりに適した作業環境の整備に心がけ、適時作業場所の変更を行い、安定した作業が出来るように働きかけた。また従業員の精神面の支援として、家族等も含め面談を随時実施した。

(2) 日課、作業状況

○第1業務(8:00~16:00)

	場 所	29年度	28年度	27年度
公園清掃	区内公園	35公園 3699 回	34公園 3677回	33公園 2730回
	鮫洲公園	244回	243回	244回
建物清掃	14箇所	延 3504回	延 3887回	延 3633回

○第2業務(7:00~19:00)

	回数	内 容
店舗開店日	286日	通常営業(パン製造・販売)
定例外部販売	175日	小野学園、八潮南、学研、城南職業センター 清泉女子大、ゆうゆうプラザ他
出張販売・出店	60回	福祉祭り、地域行事、法人行事、学園祭他

○第3業務(8:00~16:00)

骨壺種類	29年度	28年度	27年度
7号(大人用)	6600	6499	6375
6号~3号	330	290	284

(3) 作業支援

社会人として従業員個々が考え責任感を持って仕事に取り組めるよう働きかけ、また仕事に対して自信を持ち、社会的自立へつながるよう援助した。

(4) 行事等

7/21 納涼会(34名) 10/8~9 一泊旅行(20名) 12/15 忘年会(32名)

(5) 健康管理

健康診断(法定)を実施、健診後のフォローも産業看護職と協力して相談、改善へと繋げている。

(6) 食事

昼食は信頼性の高い弁当業者と契約、適温で弁当を提供している。

4. 会議・研修・見学/体験

(1) 会議

種 類	回数	内 容
職員会議	12回	各事業の運営状況の検証、改善検討、情報共有他
プチレーブ会議	12回	運営状況全般の検証、改善検討、販売促進計画策定
個別支援計画会議及び評価会議	2回	個別支援計画会議及び作業評価会議

(2) 研修

研修日	研修名	研修日	研修名
6/14	HACCP、食品コンプライアンス研修	7/14	支援者のメンタルヘルスを考える
8/10	管理職のためのメンタルヘルス研修	8/10	コンプライアンス強化と販売力向上セミナー
8/16-17	施設体験研修（八幡学園）	9/5-6	製パンを基礎から学ぶ
10/5	職場内コミュニケーションの円滑化とミーティングの活性化を目指して	10/11-12	中堅職員研修
11/9	安全運転管理者研修	11/21・12/4	東京都障害者虐待防止研修
12/15	自転車安全利用 TOKYO セミナー	1/22-23	障害者虐待防止リーダー研修
2/6	コミュニケーションとメンタルヘルスの基本を学ぶ	2/20-21	管理職研修（キャリアパス対応）

事業所内研修	10名	9/20 障害福祉サービス 就労継続支援A型の良い点と悪い点 10/18 発達障害と障害者手帳 11/15 障害サービスについて 12/22 リスクマネジメント 1/26 感染症対策 2/23 品川区移動支援事業について
資格取得	2名	サービス管理責任者（就労） 1名 社会福祉士 1名

(3) 実習生（社会福祉、介護福祉、東社協）

介護福祉士実習生 5名

(4) 見学／体験（利用者）

品川特別支援学校・小学部 33名・中学部 15名

伊藤学園・中学生 2名 豊葉の杜学園・中学生 6名

5. 家族・地域社会との関わり

(1) 家族会（年1回実施）

事業運営経過説明、最低賃金改定についての説明等を行っている。

(2) 地域社会との関わり

近隣住民の方達への挨拶と清掃を実施している。

6. その他

(1) 防災

内 容	回数	内 容
火災想定訓練	5回	火災想定、避難誘導、危機意識の醸成
地震想定訓練	5回	地震想定、避難誘導、危機意識の醸成
風水害想定訓練	2回	備品確認、各所継走連絡訓練

(2) 売上状況

(円)

売上	第1業務 (清掃)	第2業務 (パン工房)	第3業務 (製陶)	合 計
平成29年度	59,567,698	32,296,749	34,484,694	126,349,141
平成28年度	59,530,155	27,267,398	33,870,200	120,667,753
平成27年度	60,877,257	33,462,279	33,251,500	127,591,036

平成29年度 品川区立心身障害者福祉会館事業報告

1. 総括

品川区立心身障害者福祉会館は、品川区内における障害者福祉のセンター機能を担う事業所として、引き続き、品川区障害者福祉課との連携を図り、①自立訓練センター②生活介護事業③障害者生活支援センター④地域活動支援センターの4つの機能を軸として、利用者の総合支援を進めてきた。

自立訓練事業においては、訓練の目的・機能をさらに明確化して事業を継続した。引き続き医療・保健機関、障害者生活支援センター、就労支援センター等、関連機関との情報交換を密にすることで情報共有を図り、支援の連携体制の維持に努めた。

障害者生活支援センターにおいては、品川区における障害者支援拠点化に向けて、事業を遂行するため、検討会や自立支援協議会部会へも積極的に参加した。

地域活動支援センターにおいては、区内在宅障害者を対象とした、個別ニーズに対応した各種相談に応じる他、日常生活の充実、自立に向けての援助としての事業や個別指導を行ってきた。サロンの運営や障害別事業等、特色を持った事業展開を心掛けた。

生活介護事業においては、プログラムに個別支援日を設定することで、利用者個々の個性や特性に応じた支援を継続した。

2. 支援経過

(1) 苦情解決・サービス向上

- ① 法人の苦情解決第三者委員会の規程に従い苦情、要望対応を行った。
- ② 意見箱の設置、委員会のポスター掲示などをおこなった。
- ③ 品川区サービス向上研究会の活動に準じ、セルフチェックを行った。
- ④ 法人全体で毎月のセルフチェックを導入した。

(2) 健康管理

- ① 必要な利用者を対象に毎朝バイタルチェックを実施した。
- ② 毎月1回体重測定と血圧測定を実施した。
- ③ 内科・リハビリテーション科・歯科の嘱託医による健康相談を実施し、歯科医による摂食指導や口腔ケア訓練等を実施した。また、個々の機能に合った食事形態の給食を提供した。
- ④ 生活介護事業利用者全員を対象に、健康診断を年1回実施した。

(3) 給食サービス

- ① 嗜好調査を行い、また献立の希望を聴取し、献立作りに反映し、障害、摂食状況に応じた二次加工を行ない、選択食も実施した。
- ② 給食業者・一富士フードサービス（株）と食事提供のレベルアップに向け、月一回給食会議を実施した。
- ③ 適温給食可能な、温冷配膳車を運用してきた。

3. 会議・研修

(1) 会議

- ①職員会議 毎月1回実施 4事業合同で、全職員（非常勤含む）が参加した。
- ②事業所会議（訓練センター・生活介護事業会議毎月1回、支援センター会議毎月2回、地域活動支援センター会議随時）
- ③ケース会議 必要に応じて、生活支援センターと連携しながら支援センター会議の中で実施した。
- ④予算会議 必要に応じて役職者で実施した。
- ⑤給食会議 毎月1回実施 委託業者調理員と合同で給食委員会を開催した。
- ⑥打ち合わせ 毎朝、夕全職員参加で実施した。
- ⑦役職会議 毎月2回（施設長会議の翌日）実施。情報共有、意見交換の場として実施した。

(2) 研修

- ①法人研修 法人の研修計画に沿って参加した。
- ②外部研修 東京都、東京都社会福祉協議会、品川区等主催等の研修に参加した。
- ③現任研修 事業所内で企画実施した。

4. 家族・地域社会との関わり

- ①生活介護事業にて保護者会を年に2回開催した。
- ②生活介護事業では、必要な利用者に対して連絡帳による家庭との情報交換を実施、その他必要により個別面接を行った。
- ③運営協議会を品川区、地域関係者、障害者団体、法人の4団体で開催した。
- ④機関紙を発行し、関係機関や地域関係者に配布した。
- ⑤地域交流事業「会館まつり」を地域関係者、障害者団体と実行委員会を組織し、開催した。

5. 行事

- ①館外活動（生活介護事業） ②会館まつり

※運動会は、平成28年度より館内行事に変更して実施。全利用者が楽しめる行事に変更したものが定着した。

6. 防災

毎月1回、全体で防災訓練を実施した。

平成29年度 生活訓練事業報告

1. 総括

定員は6名で事業内容は本来の生活訓練の目的・機能をさらに明確化して事業を継続した。引き続き医療・保健機関、障害者生活支援センター、就労支援センター等、関連機関との情報交換を密にすることで情報共有を図り、支援の連携体制の維持に努めた。また区内にある介護保険制度の老人在宅介護支援センターに事業の説明を行い、訓練対象者の紹介を依頼、サービス利用促進への取り組みを実施した。また平成31年度から、港特別支援学校卒業後の利用施設となるように学校へアプローチし、平成30年度から、実習生の受入れを開始できるように準備を進めた。

訓練内容としては、見学・面接等で一人ひとりのニーズを把握し、併せて作業療法士、理学療法士による専門的観点からのプログラム作りを継続し、実効的な内容を提供した。

2. 利用者状況

①利用人数・稼働率・利用者平均年齢

利用者定員 6名	月及び年間平均稼働率	
一年間、登録者数は、定員以上を維持したが、個人に合わせた訓練メニューや目標により利用支給量が決まっている事業の都合上、満員の期間は少なかった。そのため、新規の方に利用戴けるよう定期的に関係機関に働きかけを行っている。	4月：48.3%	10月：52.4%
	5月：33.3%	11月：49.2%
	6月：36.4%	12月：44.2%
	7月：44.2%	1月：54.4%
	8月：46.2%	2月：55.3%
	9月：52.5%	3月：50.0%
	年間平均稼働率 47.2%	
	4月から9月 43.5%	
	10月から3月 51.1%	
平成30年3月31日現在の在籍状況：8名		
男性 5名 平均年齢：52.8歳	女性 3名 平均年齢：44.3歳	全体平均年齢 49.6歳

3. 支援経過

- ①個別支援計画に基づき、作業療法士・理学療法士による訓練を実施した。
- ②訓練内容としては、一人ひとりのニーズを把握し、目標に沿ってパソコン課題、机上課題（プリント類）、軽作業、外出訓練、グループ訓練（軽作業、調理活動）を取り入れた。
- ③外出訓練では、歩行状態や公共交通機関の利用状態等を観察し、利用者本人や介助者（家族等）に対して改善策を提案した。
- ④生活調査を通じて、食生活・住環境・衛生管理・金銭管理等生活全般について、生活の質の改善、地域生活での自立を目指した。

4. 作業療法

作業療法士の評価、本人の希望等に基づき訓練内容の組み立てを行った。

5. 理学療法

作業療法がメニューの中心であるが、希望・必要がある場合には理学療法士による評価を行い、自主トレーニングメニューの作成を行った。

平成29年度 機能訓練事業報告

1. 総括

本来の機能訓練の目的・機能をさらに明確化し、事業を継続した。引き続き医療・保健機関、障害者生活支援センター、就労支援センター等関連機関との情報交換を密にすることで情報共有を図り、利用に向けた相談等の連携体制の強化に努めた。また区内にある介護保険制度の老人在宅介護支援センターに事業の説明を行い、対象者の紹介を依頼、サービス利用促進への取り組みを実施した。

訓練内容としては、見学・面接等で一人ひとりのニーズを把握し、併せて作業療法士、理学療法士による専門的観点からのリハビリ計画書の充実を図ると共に、その計画に沿ったプログラム作りを継続し、実効的な訓練、支援を進めた。

2. 利用者状況

利用人数・稼働率・利用者平均年齢

利用者定員 6名	月及び年間平均稼働率	
医療機関の治療的機能訓練が主の目的ではなく、「就労、生活確立等の目的達成のためのリハビリ」を行う事業所として利用いただいている。 利用促進は引き続き課題のため、関係機関との連携強化を進めていく。訓練を終了した2名は、1名が在宅に戻り、1名は、就労移行支援事業につないでいる。	4月：20.0%	10月：19.0%
	5月：25.0%	11月：24.2%
	6月：27.3%	12月：22.5%
	7月：26.7%	1月：20.2%
	8月：24.2%	2月：22.8%
	9月：20.8%	3月：5.6%
	年間平均稼働率 21.5%	
	4月から9月 24.0%	
	10月から3月 19.1%	
	平成30年3月31日現在の在籍状況： 1名	
男性 1名 平均年齢：50.0歳	女性 0名 平均年齢： 歳	全体平均年齢 50.0歳

3. 支援経過

- ①リハビリ計画書に基づき、理学療法士・作業療法士による訓練を実施した。
- ②体力維持や向上に向け、理学療法士の指導・判断による自主トレーニングプログラム（エルゴメーター・筋力トレーニング等）を作成、自宅でも訓練の継続が図れるよう指導・助言を行った。
- ③就労を目標としたパソコン課題・机上課題・軽作業（仕分け・タオルたたみ他）等を実施することで得手・不得手の自覚に導き、改善方法を見出すことで就労意欲の喚起を促し、就労実現をサポートした。
- ④外出訓練では、歩行状態や公共交通機関の利用状態等を観察し、利用者本人や介助者（家族等）に対して改善策を提案した。

4. 理学療法

リハビリ計画書に基づいた理学療法士による機能訓練を実施した。身体機能の維持や向上を図り、二次障害の予防や軽減を目的に、自主訓練メニューを作成した。

5. 作業療法

個別支援計画書に基づいた作業療法士による訓練を実施した。各種プログラムに作業療法士が、利用者にあった個別性の高いプログラムを組み立て、実践の中で、達成度や改善点の共有を行った。

平成29年度 生活介護事業報告

1. 総括

個別支援計画に沿った支援を強化し、プログラムに個別支援日を設定することで、利用者個々の個性や特性に応じた支援を継続した。また、作業療法士・理学療法士との連携強化を図り、グループ訓練を継続したことにより、職員の作業療法・理学療法への理解が更に深まり、日々の介護にも訓練意識の向上が見られた。

支援方針としては、障害者生活支援センターと連携した個別支援と、利用者の希望・意向を尊重する支援を継続した。また利用者の重度高齢化への対応として、居室スペースの拡大や職員配置を増員し、支援の充実を図った。

利用者サービス向上への取り組みとして、生活介護会議の中で職員が輪番でテーマを定め、グループディスカッションを行うことで職員個々のスキルアップを図り、事業全体のレベルアップに努めた。

2. 利用者状況

利用人数・稼働率

利用者定員 50名	月及び年間平均稼働率	
年度途中で1名が他区へ転居し、1名が介護保険制度へ移行、1名が施設入所、1名が在宅支援への移行で退所。(計4名)	4月：89.0%	10月：87.0%
	5月：83.7%	11月：88.1%
新年度に2名が特別支援学校から入所、年度途中で1名が在宅より入所となっている。(計3名)	6月：89.2%	12月：87.4%
	7月：90.1%	1月：81.3%
平成30年3月31日現在の在籍状況：54名	8月：85.7%	2月：78.2%
	9月：89.9%	3月：84.2%
	年間平均稼働率	86.2%
	4月から9月	87.9%
	10月から3月	84.4%
男性 34名 平均年齢：35.6歳	女性 20名 平均年齢：36.7歳	全体平均年齢 36.0歳

3. 支援経過

- ①体温や血圧等の判定により、利用者の健康状態の把握に努め、個別によりきめ細かく配慮した。
- ②リハビリ計画書に基づき、理学療法士・作業療法士による訓練を実施した。
- ③個別プログラムとして散歩、創作活動等をその日の希望により個別に実施してきた。
- ④全体プログラムとして音楽活動、カラオケ、ビデオ鑑賞等を実施してきた。
- ⑤感覚刺激を利用したプログラム（手浴・足浴、音楽療法、リラクゼーション、読み聞かせ、スムーズレン等）に重点をおき、実施した。

4. 理学療法(PT)

リハビリ計画書に基づいた理学療法士によるグループ単位の機能訓練を実施した。身体機能の維持や向上を図り、二次障害の予防や軽減を目的に、生活支援員が理学療法士の指導の下、日常のマッサージ等を実施した。

・訓練実施回数 年 48 回

5. 作業療法 (OT)

リハビリ計画書に基づいた作業療法士によるグループ単位の機能訓練を実施した。各種プログラムに作業療法士が入り、手指の巧緻性や上肢の運動機能、認知機能等の訓練を実施した。

・訓練実施回数 年 36 回

6. 音楽療法

講師を招いてミュージックセラピーを実施、音楽に合わせた身体運動により精神的緊張の軽減と情緒の安定を図った。

・実施回数 年 19 回 (1月～3月は、会館工事により中止)

7. 摂食指導及び給食サービス

必要な利用者へ、ご家族、摂食指導医、栄養士、給食委託業者、看護師、生活支援員が連携を図り、利用者個々に適した食形態の食事提供及び食事介助方法の検討を行い、随時実施した。今年度、温冷配膳車を新調し、スチームコンベクションを購入し、給食サービスの質の向上を図った。

・実施回数 年 9 回 (1月～3月は、会館工事により中止)

8. 入浴サービス

家庭で入浴が困難な利用者等の入浴を行った。

・利用人数 2 名 (週 1・2 回利用) (1月～3月は、会館工事により中止)

9. 送迎サービス

必要な利用者へ、車両による送迎サービスを実施した。

・利用人数 37 名 / 55 名 全登録者数中 (全員がほぼ往復利用)
(平成 30 年 3 月 31 日現在)

10. 虐待防止やサービス向上への取り組み

毎月 1 回、虐待防止委員会やサービス向上委員会を実施した。また今年度は「職員の接遇状況調査」と「福祉サービス第三者評価」を受審した。その中で、利用者アンケートを実施し、職員の支援やサービスの質の向上を図った。

平成29年度 品川区障害者生活支援センター事業報告

1. 総括

平成29年度は、相談員6名で事業を開始している。主に身体障害者・知的障害者の相談支援と共に、高次脳機能障害相談事業を実施した。

今年度の重点目標として位置づけた「指定特定相談支援事業者」「指定一般相談支援事業者」業務を遂行。品川区における障害者支援拠点化に向けて事業を展開するため、検討会や自立支援協議会部会へも積極的に参加した。

相談の傾向として、身体障害者の相談支援が、居宅サービスの調整が中心である事に対して、知的障害者の相談支援では、日中の生活の場や日常生活のトラブルなどの相談が多い。

又、リスクの高い家庭（老障介護や介護者の疾病等）の対応はその都度関係機関との連携を調整したが、事前の把握と準備が課題として上がっている。

一方、地域生活拠点マネージャーを配置し、緊急時の時間連絡体制を整えながら、ハイリスク家庭の状態把握や関係調整を進めるとともに、事業所との連絡調整や関係を強化した。

また、相談支援センターの事業が認知されてきている為か、区内通所施設からの相談も増加している。今後も、他法人支援センターと共に「拠点支援センター」の指名を受け、役割や調整についての責務を継続していく。

他に、高次脳機能障害者相談に専任作業療法士(OT)を週に1回配置。地域の高次脳機能障害者情報を集約する役割を担う。高次脳機能障害者の相談支援は、一般就労への復帰や安定した日中生活の場の確保などの相談が多い。作業療法士により高次脳機能評価などのアセスメントを踏まえ関係機関への繋ぎや本人・家族が障害と向き合える環境整備を行った。関係事業所との連携が区内外において必要となり、実施経過がそのまま関係機関との連携件数の増加に繋がった。次年度への仕組み作りの打ち合わせにも参加している。

一方で自立支援協議会、同会専門部会に参加、ケースを通して障害者が在宅生活をする上で必要とするサービスの報告・提案をしている。

ピアカウンセリングでは、八潮地区対象者のニーズに応えるため、出張相談を実施した。

2. 実施事業

(1) 障害者対象の総合相談、障害者福祉サービスの利用援助

- ① 各種の福祉情報を提供した。
- ② 各種福祉サービスを利用する際の援助を行った。
- ③ サービス利用計画書を作成、サービス調整、モニタリングを行う。
- ④ 障害区分の認定調査を実施した。

- ⑤ サービス担当者会議等を開催した。
- ⑥ サービス調整会議に参加した。
- ⑦ 障害者の緊急時に対応する。
- ⑧ 区内障害者関係事業所との連携を図った。
- ⑨ 品川区障害者福祉課と連携を強化、利用者の生活を総合的に支援した。
- (2) 社会資源を活用するための支援
 - ① 各種施設・関係機関等の紹介を行った。
 - ② 障害者が外出する際の支援を行った。
 - ③ 障害者に対しての住宅の紹介を行った。
 - ④ 外出や旅行、買い物などの生活情報を提供した。
 - ⑤ 障害者の自主グループ等の情報を提供した。
- (3) 社会で生活するための能力を高める支援
- (4) 障害者自身によるピアカウンセリング
 - ① パンフレットを作成、区報や法人報を利用した PR 活動を行った。
- (5) 訪問リハビリ相談

在宅の重度身体障害者を対象に、訪問を中心とした専門家（リハビリテーション科医師・理学療法士等）による助言指導を行なった。また、車椅子・補装具・リハビリテーションに関して専門医による相談日を設け、助言指導を行ってきた。
- (6) 行政・各障害者施設・各ヘルパー事業所・就労支援センター等とネットワークを構築し、連携を図った。
- (7) 自立支援協議会への参加
- (8) 入浴サービス

家庭での入浴が困難な重度の障害者へ巡回入浴車を派遣した。
- (9) 高次脳機能障害者相談

高次脳機能障害者の相談支援を開始した。内容としては、一般就労への復帰や安定した日中生活の場の確保などの相談が多い。作業療法士による高次脳機能評価などのアセスメントを踏まえ関係機関への繋ぎや本人・家族が障害と向き合える環境整備を行なった。相談を実施する中で、対応事業所の不足や家族を含めた困窮の実態が明らかになり、大きな課題が浮き彫りとなったケースもあった。介護保険法上の特定疾病の第二号被保険者の場合、介護保険事業所との連携が必要となるため、他職種協働が引き続き課題となる。
- (10) 「地域活動支援センター」と連携し、ニーズの発信や提供を通じて在宅障害者サービスを進めた。

3. 受講した研修等

- ・ 東京都障害程度区分認定調査員研修（東京都福祉保健局）
- ・ 東京都相談支援従事者初任者研修（東京都福祉保健局）
- ・ 南部圏域高次脳機能障害者支援普及事業講演会（荏原病院）
- ・ 東京都自立支援セミナー（東京都福祉保健局） 他

4. 実習生の受け入れ

ルーテル学院大学社会福祉学科、上智大学社会福祉学科、東洋大学ライフデザイン科 他

5. 資料：相談支援事業内容集計（件）

①相談者内訳

（数字は延件数）

	本人	家族	関係機関	病院	その他	合計
H29年	1,508	920	4,113	320	56	6,917
H28年	1,358	975	3,812	231	62	6,438
H27年	1,541	648	3,720	249	101	6,259

②調査件数

（数字は延件数）

	認定区分調査 <small>（新規・更新・変更）</small>	介護給付・訓練等給付 <small>（新規・更新・変更）</small>	計画相談 <small>（新規・更新・モニタ）</small>	合計
H29年	107	193	578	878
H28年	19	123	933	1075
H27年	52	153	1052	1257

③相談内容内訳

（数字は延件数）

相談内容	H29	H28	H27	相談内容	H29	H28	H27
福祉サービス利用	5755	5,508	4,897	社会参加・余暇活動	156	15	11
障害や症状の理解	485	559	515	権利擁護	17	23	26
健康・医療	1334	1,025	912	制度活用・説明	398	366	259
不安解消・情緒安定	135	205	69	住宅改修	12	0	6
保育・教育	3	48	12	補装具関係	77	73	84
家族・人間関係	543	440	265	日常生活用具	33	25	35
家計・経済	72	101	66	ピアカウンセリング	8	6	9
生活技術	141	73	56	その他	915	723	888
就労	518	303	244	合計	10,602	9,493	8,354

④対応

（数字は延件数）

	情報提供	指導助言	サービス設定	サービス再調整	訪問設定	他機関調整	補装具	日常生活用具	その他	合計
H29年	5,906	191	230	455	555	178	77	25	563	8,180
H28年	3,597	327	124	900	497	417	42	23	609	6,536
H27年	3,122	285	124	827	472	574	61	30	786	6,284

平成29年度 品川区障害者地域活動支援センター事業報告

1. 総括

平成29年度は、施設長1名、支援員3名で事業を行った。

区内唯一の地域活動支援センターとして、引き続き区内在宅障害者を対象とした、個別ニーズに対応した各種相談に応じる他、日常生活の充実、自立に向けての援助としての事業や個別指導を行ってきた。又、社会参加の基礎作りとして、レクリエーションや趣味活動を通して生活の質の向上を図る他、聴覚障害者への手話・要約筆記通訳者派遣の充実、同養成講座を継続開催した。地域活動支援センターとして、サロンの運営や障害別事業等、特色を持った事業展開に心掛けた。

2. 事業状況

(1) 相談・指導・訓練

- ① 一般相談:窓口や電話により各種にわたる相談に応じてきた。個別のニーズに合わせ、事業の紹介を行い、必要に応じ障害者生活支援センターと連携をはかった。ボランティア活動の希望等については各種事業やボランティア団体等を紹介し、ニーズとサービスを結び付けた。
- ② 言葉のリハビリ教室:脳血管障害による失語症を主対象に言語療法士の指導のもと言語訓練を実施した。この教室メンバーを中心に、自主グループが活動しており、側面的な支援を行った。

(2) 社会参加プログラム

地域で自立した生活を送れるよう、生活の基礎作りのためのプログラムを組み、さらに仲間との交流や趣味を持つことで生活の質の向上に向け支援した。

- ① 創作(工作・切り絵)教室②料理教室③音楽教室④健康体操教室
- ⑤ダンス教室⑥高次脳機能障害者・知的障害者の生活講座⑦ワークショップ開催

(3) 障害者パソコン指導

障害者の情報通信技術(IT)の活用のニーズに応えるため、障害者パソコンテーマ別教室と相談日を設定、実施した。

(4) 手話通訳者・要約筆記者派遣事業

聴覚障害者からの申請により、手話通訳者・要約筆記者の派遣を行った。技術向上のため、登録手話通訳者・要約筆記者への現任研修を実施した。

(5) ボランティア育成

障害者の完全参加と平等という障害者福祉の理念が区民に深く定着するための講習会を実施。ボランティア団体との連携、協調を進めた。

講座・講習会:手話講習会、点字講習会、朗読講習会等

(6) 啓発事業

福祉啓発事業に参加し、出張ワークショップを開催、対象者が固定しているが、

土曜開催のメリットを活かし、就労している利用者の参加を得ている。

(7) 各種貸し出し事業

- ① 訓練室等の貸し出し:障害者団体およびボランティア団体の活動を援助、また地域住民に対し訓練室等の提供や事務機器等の提供を行った。
- ② 区内の障害者に対して車椅子の貸し出しを行った。

(8) 交流室の運営

- ①事業に参加した方が寄っていただくスペースとしての活用他、一部事業に利用し、季節ごとにハロウィンやクリスマス会を企画、引き続き気軽に立ち寄れるスペースとして、様々な障害を持った方たちが情報を得られるような空間となるよう努めた。

事業名	H29	H28	H27	事業名	H29	H28	H27
パソコン教室 教室・相談・テーマ別	142	138	143	創作教室 手芸・編み物・工作 切り絵・絵画、和紙・折り紙	484	516	433
ダンス教室 (知的障害)	77	100	113	生活講座 (知的)	37	54	50
健康体操教室 (肢体不自由)	180	207	193	生活講座 (高次脳機能障害)	45	35	24
料理教室(知的障害)	32	40	34	聞こえにくい方のコミュニケーション講座	28	21	/
料理教室(身体障害)	35	39	31	点字講習会	162	142	135
理学療法士訓練	/	/	/	手話講習会(全5クラス) 入門・基礎・通訳Ⅰ	1881	1865	1,094
言葉のリハビリ教室	257	279	240	朗読講習会	191	74	181
音楽教室(歌・合唱)	119	124	124	中途失聴・難聴者 サポーター養成講座	43	/	64
音楽教室(音楽療法)	66	64	82	造形ワークショップ	12	67	67
高次脳機能障害者 サポーター養成	36	48	/	/	/	/	/

交流室	1104	908	813	手話通訳者派遣事業 (区派遣/派遣C)	919	829	487
合同交流会	104	70	64	要約筆記者派遣事業 (区/広域・派遣C)	35	14	22

数字は延人数 斜線は年度事業開催なし

平成29年度 八潮中央保育園事業報告

1. 総括

在籍人数は年間を通して定員を満した状態であった。骨折を含めた事故が数件あり、クラス保護者会にて状況説明を行い、職員全体で安全管理の見直しを行っている。

2. 利用者状況

平成29年度年齢別利用状況 (平成29年3月31日現在 単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
延人数	108	180	180	237	233	239	1,177
月平均 在籍数	9.0	15.0	15.0	19.8	19.4	19.9	98.1

利用率 (％)

年 度	29年度	28年度	27年度
利用率	108.8	109.5	106.2

延長夜間保育利用状況 (人)

年 度	29年度	28年度	27年度
月平均延人数	159	178	189

延長夜間保育における時間別年間利用状況 (人)

平成29年度	～19：30	～20：30
1日平均	5.2人	2.0人

年末保育利用状況 (人)

年 度	29年度	28年度	27年度
12/29	5	3	7

※例年地域の利用が無い為、在園児のみを対象とした。

3. 保育経過

(1) 保育全般

園全体の計画である保育課程、各クラスの年間カリキュラムを基に保育を実施した。次年度に向けて、年度末に保育支援システムを導入し保育計画、日誌等の書式の見直しを行った。

(2) 日課

乳児は、午前中に散歩や散策等の活動を取り入れることで、生活リズムにメリハリを付けた保育を行っている。幼児クラスは行事の取組みを含めた様々な活動を取り入れながら、可能な限り散歩や園庭遊び等で身体を動かす時間を作るよう

に心掛けた。

(3) 行事

季節毎の行事について、各年齢に合わせた説明や取組みを行うことで、子ども達が行事を少しでも意識できるようにした。

(4) 健康管理

4月と11月中旬から12月中旬に感染性胃腸炎、1月上旬から3月上旬にインフルエンザA型、B型が同時に流行した為、保健所に報告している。

その他、乳児クラスを中心に夏季に手足口病が流行している。感染症が流行始めた段階で、保護者に情報提供している。

ケガによる通院件数は10件で、散歩先の公園遊具からの転落による骨折、室内遊び時の事故による下前歯陥入・亜脱臼、転倒による額切傷(3針縫合)といった複数回通院を要する事故があった。その他、打撲や擦過傷等による通院が7件であった。

(5) 給食

和食を中心としたメニューを基本とし、様々な味を経験する機会を作った。園の畑やプランターで栽培した果物や野菜を調理して食べたり、魚の解体を通して食の大切さを伝えた。食物アレルギー児に対しては、主治医の診断書をもとにアレルギー除去食を提供している。大事には至らなかったが、アレルギー食の誤配があった為、調理室内の環境、配膳手順の見直しと日々のヒヤリハットの報告等の徹底を促した。

(6) 地域交流

5歳児は八潮内の保育園、幼稚園との交流や八潮学園での様々な体験の機会を通して地域との交流を行った。その他、品川区立品川児童学園との交流や八潮在宅サービスセンターとの交流を継続した。

(7) 一時保育

幼稚園の春、夏の長期休み時に、3歳児の利用申し込みがあった。夏は都合によりキャンセルとなったが、春に8日程利用があった。

4. 会議・研修

品川区私立保育園連合会他、様々な団体主催の研修に職員を派遣した。会議については月2回の職員会議で意見交換を行い、共通認識を促した。その他、全体職員会議を年3回実施し、次年度の計画等を全職員で検討する場とした。また、サービス向上委員会を中心に「食事」をテーマに一年間、研修や話し合いを行い、保育園での食事提供について職員の意識統一に繋げた。

5. 保護者との関わり

全体保護者会やクラス保護者会、個人面談を通して保護者と情報を共有することで連携を図った。

6. 防災、安全対策

毎月の避難訓練で災害時の対応を確認した。9月に引取り訓練、12月に津波想定訓練、1月に一時避難場所への避難訓練を実施した。また、安全対策として職員のみでの不審者対応訓練を実施した。

7. 環境整備、備品購入

園庭の環境整備として、砂場の砂の補充や植栽の剪定を行っている。

平成29年度 かえで荘事業報告

1. 総括

今年度は、これまでなかなか達成できなかった目標稼働率96%を達成できた。その要因としては、入院者数は昨年とほぼ変わらなかったが、入院者の状況をこまめに確認し、退院と新規利用者の入所のタイミングを図り、出来るだけ空床を少なくすることに心がけた。事業所内での密な打合せと調整により、緻密にベットコントロールをおこなった。また、昨年より入退所の件数が10件減り、利用者が比較的安定していたことで、それに伴う事務作業や現場への負担が少なかったことも好影響につながったのではないかと分析している。安定した経営が今後も持続できるように努めていきたい。

感染症については、今シーズンはインフルエンザに関する予防対策を11月頃から強化した。消毒・加湿・換気などを徹底し、昨年の教訓を活かすことができ、感染者は皆無にした。その結果、罹患する利用者はゼロであった。しかし、疥癬の罹患者が年間で6名出た。時期が少しずつズレて発症したため長期化し、かつショートステイフロアに集中していたため、入所者を制限せざるを得なく、ショートステイの稼働率ダウンへ大きく影響してしまった。

一年間が経過したため、常に人員不足の状態であった。また、その影響で重点目標でもあった個別ケアの実施が十分に取組めない状況であった。

2. 利用状況

(1) 利用者状況

<要介護度> (平成30年3月31日現在 単位：人)

要介護度	1	2	3	4	5	合計
利用者数	8	4	36	15	20	83

・平均要介護度 3.4 (平成29年度 3.5) (※一時入所含む)

利用者のうち要介護度3・4・5の利用者が85.6%を占める。

<年齢> (平成30年3月31日現在 単位：人)

	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	計
男	1	2	0	4	2	5	0	14
女	0	3	3	11	25	24	3	69
計	1	5	3	15	27	29	3	83

・平均年齢 87.2歳 (平成28年度 86.9歳)

・最低年齢 62歳 最高年齢 101歳

(2) 稼働率

平成・年度	29年度	28年度	27年度
稼働率 (%)	96.1	94.6	95.2

3. 援助計画

(1) 日課・週課

利用者の重度化、職員不足により個別外出などの実施が難しかった。

(2) 機能回復訓練

機能訓練指導員として作業療法士を配置し、介護士・看護師との協働にて、個別機能訓練計画を作成した。利用者の重度化・高齢化に伴い、自力での寝返り動作が困難な利用者に対し、褥瘡や拘縮の予防・改善、臥位姿勢の向上を目的としたポジショニングを実施。作業療法士が介護士・看護師と連携しポジショニングに取り組むも継続的な実施が課題となっている。

<機能回復訓練実施状況> (平成30年3月31日現在 単位：延人数)

平成・年度	29年度	28年度	27年度	
内	歩行訓練	257	451	440
	立位バランス	52	183	233
	極超短波療法	0	0	673
	上半身機能訓練	1145	1310	652
	下半身機能訓練	95	313	776
容	生活リハビリ	18, 257	17, 756	14, 268
合計	19, 808	20, 013	17, 042	

(3) 余暇活動

花布巾サークル・書道サークル・園芸サークル・体操・認知症高齢者向けのサークル「お達者村」、傾聴などはボランティアの協力のもとサークル活動として実施したが、ボランティアの来所者数が減り、サークル実施の回数も減少傾向。各フロアでのレク活動(歌)・料理サークル活動は介護士が中心となり行った。近隣の保育園との交流は継続して実施し、利用者に変喜ばれた。

(4) 行事

① 月例行事

近隣のショッピングセンターへの外出を実施した。遠出などの外出はできなかったが、利用者の要望による散策・出前食等を行った。

② 年間行事

年間を通じて、季節ごとの行事を楽しんでいただいた。法人行事である五月祭り・紅葉まつりの他、利用者の希望・身体状況に応じ、個々のニーズに合わせた個別支援サービスを実施した。

(5) 利用者の健康管理

昨年と同様に、入院期間は2週間程度と短く入院者数もほぼ横ばいであった。早期発見、早期対応に努めること、日々の健康管理とケアの持続的観察の重要性を改めて感じた。平成29年度も医療機関の協力を得ながら往診を依頼、定期通院への負担を軽減するなどの調整を行った。健康診断は医療機関の協力を得て施設内にて実施することで利用者の負担軽減を図った。

<入院状況>

年度	入院延べ人員(人)	入院延べ日数(日)	平均入院日数(日)
29年度	126	1,987	14.6
28年度	129	1,945	15.07
27年度	75	2,406	32.1

(6) 食事

管理栄養士・看護師・介護士等による会議を開催し、栄養ケアマネジメントと利用者の栄養管理に努めた。また、利用者個々の心身状態に応じた食事を提供するために、希望献立調査や選択食の提供を行った。日々の食事については、委託業者を含め給食会議で食事環境の改善を検討し、安全な食事提供を推進するなど、給食委託業者との連携も良好であった。近年、嚥下機能低下の方が増え、行事食において誤嚥事故が起きている。より安全に食事提供ができるよう更なる工夫をしていく必要性を感じた。また、利用者自身が食を作る楽しみの提供ができた。

<食事形態の状況> (平成30年3月31日現在、入院者除く実人員)

年度	ペースト食	きざみ食	あらかざみ食	経管栄養	一般食
29年度末	14	26	22	7	8
28年度末	12	24	26	7	12
27年度末	13	27	23	7	11

4. 会議・研修

(1) 研修

毎月1回施設内研修の一環として現任研修と医療に関する勉強会を開催し、介護技術の向上や知識の習得等を行った。外部研修についても積極的に参加したが報告会が十分出来なかつたので次年度は報告会の機会を増やしたい。

(2) 会議

毎月職員会議・医務連絡会など定期的実施した。また、ケースカンファレンスはより多くの現場職員が参加出来るよう調整を行った。役職連絡会、生活相談員会議を月1回開催し情報の共有化・連絡・調整に努めた。フロアー会議の重要性を感じながら実施回数が少なかつたので、次年度は定期開催ができるよう調整をしていく。

(3) 委員会活動

サービスの向上と職員の資質向上を目的に、サービス向上委員会・虐待防止委員会・事故防止委員会・身体拘束廃止委員会・感染症対策委員会・褥瘡予防委員会・給食委員会・医療的ケアの安全対策委員会など各委員会活動を実施した。次年度は更に機能強化していく。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

家族との協力関係の推進と事業に関する情報提供等のために、家族会の開催、かえで新聞の発行、初の試みとして利用者担当介護士から家族への報告を年3回文書で送付した。家族来荘時、また電話による連絡・相談に心がけ連携体制を強化した。

<面会・外出状況>

平成・年度	29年度	28年度	27年度
面会延べ件数	2,500件	2,229件	2,827件
面会延べ人員	2,644人	2,646人	3,484人

(2) ボランティア

ボランティア委員会が中心となり、地域福祉課と連絡・調整をし、地域・学生ボの受入れを行った。サークル活動のボランティアが減少傾向。

活動内容	実人員	延べ人数	活動内容	実人員	延べ人数
サークル関係	15	118	その他	16	185
理美容	0	0	平成29年度計	34	351
園芸	5	36	平成28年度計	51	349
行事	12	12	平成27年度計	59	331

(3) 実習生

福祉事業を支えるマンパワー育成に協力するため、実習生を積極的に受け入れる体制をとっていた。しかし、今年度も実人員16人(昨年度13人)、延べ日数は165日(昨年度203日)と更に減り、介護系学校からの実習依頼は2校のみで年々減少している。その他、介護系ではないが実習が必須科目となっている大学からの教職関連の実習や人事院からの実習など目的に応じた受け入れをおこなった。

(4) 地域社会との交流の推進

法人が主催する地域交流事業に積極的に参加した。また、地域の保育園等との交流にも力を入れ、特に八潮北保育園・東大井保育園とは定期的な交流を継続した。

6. 短期入所生活介護事業

(1) 実施概要

新規利用者は、必ず生活相談員が自宅訪問面接を行い、スムーズな受入に繋げるよう業務調整を行った。今年度も緊急ケースなどの受け入れ体制を柔軟に行った。感染症による利用制限が稼働率の数字に大きく影響した。

(2) 利用実績

平成・年度	29年度	28年度	27年度
延べ日数	1,908日	2,004日	1,594日

(3) 稼働率

平成・年度	29年度	28年度	27年度
稼働率(%)	87.0%	91.5%	82.0%

7. 防災

防災計画に基づき、センター内各施設が持ち回りで指揮者となり、毎月1回の総合防災訓練と年2回のBCP(事業継続)訓練を実施した。また、品川区福祉避難所の拠点機能により蓄電機と非常食の入れ替えをおこなった。

8. 施設管理・環境整備・備品購入等

修繕・改修関係	機械浴槽、乾燥機、洗濯機、加湿器の修繕、
備品購入関係(介護関係)	車椅子、洗濯機、ポータブルトイレ

平成 29 年度 品川区立中延特別養護老人ホーム事業報告

1. 総括

職員関係においては、介護職、看護職ともに予定数未配置の状態でのスタートとなった。年度内に異動、新規採用により職員の欠員補充を行うが、退職、異動等があり、結局人員補充が出来ず、派遣職員の採用で業務を進めた。目標稼働率は前年度の実績を踏まえ 96%に設定したが、92.6%と約 3%及ばなかった。

前年度より看取り介護を開始し、管理医師の協力の下、本人・家族の希望を受けて、年間 12 名の利用者に対応した。「最後の最期までその人がその人で在り続けること」を念頭にケアを行い、看取り介護を行うことが職員の利用者対応力の成長に繋がっている。しかし、死に直面する精神的な負担は大きく、メンタル面でのサポートが必要となっている。

相談員においては、看取り介護に係るカンファレンスやケアプラン作成、ご家族対応、居室の調整、加えてそこにはショートステイの入所調整も関わってくる事から、業務が相当に繁雑、かつ時間調整が課題となる。

また、昨年、一昨年と結核感染者が確認されているため、保健所の指示に従い、利用者・職員の検診を継続的に実施している。

2. 利用状況

(1) 利用者状況

<要介護度> (平成 30 年 3 月 31 日現在 単位：人)

要介護度	1	2	3	4	5	申請中	合計
利用者数	3	7	19	30	20	0	79

・平均要介護度 3.7 (平成 28 年度 3.6)

利用者のうち要介護度 3 以上の利用者が 87.3%を占める。

<年齢> (平成 30 年 3 月 31 日現在 単位：人)

	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	計
男	0	0	2	4	2	3	0	11
女	1	1	1	8	21	31	5	68
計	1	1	3	12	23	34	5	79

・平均年齢 89.4 歳 (平成 28 年度 90.9 歳)

・最低年齢 68 歳 最高年齢 107 歳

(2) 稼働率

平成・年度	29年度	28年度	27年度
稼働率 (%)	92.6	93.2	95.5

3. 援助計画

(1) 日課・週課

利用者一人ひとりについて、心身の状態変化に応じてきめ細かく担当者会議を行い、多職種間での情報共有と意見交換を重ね、ケアプランの変更やサービス内容の

確認を行なった。また、一斉一律のケアから個別ケアへの取り組みの推進、居室担当者の役割の強化、モニタリングの適切な実施を行い、ご本人の望まれる暮らしに近づける実践につなげていった。

(2) 機能回復訓練

日常生活の中で、利用者自身の持てる力を発揮し、身体機能の維持向上を図るため自然と身体を動かすことを生活リハビリと位置づけて実施した。マッサージ師、理学療法士（非常勤）によるリハビリ計画に基づき個別の訓練を中心に実施し、一人ひとりの機能維持、向上に努めた。

<機能回復訓練実施状況>

(単位：人)

平成・年度		29年度	28年度	27年度
内 容	歩行訓練	381	422	693
	立位訓練	724	714	791
	端座位訓練	212	312	179
	温熱療法（極超短波・ ホットパック）	228	288	330
	四肢体幹機能訓練	1,515	1,940	2,118
	生活リハビリ	37,665	32,175	31,690
	集団リハビリ	73	79	174
計		40,798	35,381	35,975

(3) 余暇活動

園芸、音楽、折り紙等のサークル活動については、ボランティアの協力を得て、できるだけ利用者個人にあった活動を行なった。特に園芸については、年に2回の評価会を実施し、園芸療法研修会との連携を強めている。今後は、利用者の願いや要望に添い、利用者自身が普段の日常生活の中に喜びや満足感を感じられる時間が創出できる支援を進めてきた。

(4) 行事

① 月例行事

お花見、敬老会、バイキング食事会など季節感のある行事を企画し、食事メニューにも工夫を重ね、利用者に喜んでもらえるよう、またご家族にも楽しんで頂ける様、各階単位で企画・実施し、施設職員との距離感を縮める工夫をした。

② 年間行事

毎年恒例の中延複合施設の全体行事『くつろぎ祭り』のほか、年末の餅つき大会などを実施した。また、法人本部の行事（オレンジカフェ・五月祭り・紅葉祭り）にも参加した。

(5) 利用者の健康管理

入院者の延べ人数、延べ日数共にほぼ昨年同様、退所者数は37名であった。管理医師（内科）や嘱託医師、協力病院に変更は無かった。

1月には複数名の利用者がインフルエンザに感染したため、一時的（1週間程）

に面会を制限させて頂いた。

<入院状況 単位：人・日>

年度	入院延べ人員	入院延べ日数	平均入院日数
29年度	96	1,465	15.3
28年度	127	1,838	14.4
27年度	117	1,751	14.9

(6) 食事

委託業者であるベストフードサービスと連携し食事提供を行った。味や盛り付けも安定しており、利用者には概ね好評だったが、食材の調達については地元業者の活用を前提としているため、コスト面で厳しい状況となっている。その他、栄養ケア計画に基づき、医師、看護師、介護士等と連携し、その方にあった食事を提供してきた。また、各種の栄養補助食品等の使用により、可能な限りの経口摂取を図ってきた。

<食事形態の状況>

(実人数)

	ペースト食	極さざみ食	さざみ食	粗さざみ食	常食	経管栄養
29年度末	5	10	25	28	7	4
28年度末	5	16	16	23	13	6
27年度末	7	6	23	26	13	2

4. 会議・研修

(1) 研修

ケアの質の向上、職員のスキルアップのために、品川福祉カレッジや東京都認知症介護研修等、各種の研修に積極的に参加した。

(2) 会議

職員会議・サービス担当者会議・フロア会議等を必要に応じて、随時および定期的に開催した。特にサービス担当者会議は、短時間でも細かく丁寧に行ない、随時ケアを見直した。また、原則リーダー全員参加による「役職者等連絡会」を月に2回程度開催し、様々な情報共有と意見交換、ケア方針等の確認を行った。

(3) 委員会活動

定例会議と連動して指針に基づき、事故防止、感染症予防、床ずれ予防、看取り、虐待防止、サービス向上等の各委員会を随時開催した。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

2回の事業説明会を開催。家族会の役員会は28年度を以て家族会からの申し入れにより終了している。

<面会状況>

平成・年度	29年度	28年度	27年度
面会延べ人員	7,306人	5,803人	6,723人

(2) ボランティア

介護士の補助的な業務や行事関係だけでなく、館内の樹木の水やりや清掃など、

施設内の状況を見て、自主的に関わっていただいている。洗濯物畳みについては担当職員と特に良好な関係を保ち、地域の方への施設理解につながっている。

<ボランティア活動状況>

活動内容	実人員	延べ人数	活動内容	実人員	延べ人数
サークル関係	4	135	行事	22	22
余暇活動	14	141	その他	0	0
介護士業務補助	24	427	平成29年度計	71	832
理美容	0	0	平成28年度計	81	974
園芸	7	107	平成27年度計	73	931

(3) 実習生

実人員35人（昨年度42人）、延べ日数は290日（昨年度267日）の実習生（介護福祉士・看護師等）を受け入れた。また、認知症介護実践リーダー、認知症介護指導者の実習生の受入れも継続している。

(4) 地域社会との交流の推進

地域で開催される例大祭や盆踊り大会への参加と協力、都営住宅や町会との合同防災訓練等を企画・実施していった。

6. 短期入所生活介護事業

(1) 実施概要

①定員10名②居室2階（2人部屋1室・個室2室）3階（2人部屋1室・個室4室）

(2) 稼働実績

平成・年度	29年度	28年度	27年度
延べ日数	3,268日	3,159日	3,133日

(3) 稼働率

平成・年度	29年度	28年度	27年度
稼働率（%）	89.6	87.0	85.8

申し込み数は平均25.6件だが、急な入院等によるキャンセルの影響が大きかった。在宅介護支援センターを併設しているため、緊急利用が多く稼働率は微増している。

7. 防災

防災計画に基づき、毎月1回の防災訓練及び震災想定訓練を実施し、内、年2回は合築の都営住宅、町内会との合同訓練を行った。

8. 施設管理・環境整備・備品購入等

修繕・改修関係	消防設備改修、排水設備
環境整備関係	居室内トイレ全面ボード
備品購入関係	厨房冷凍冷蔵庫、自動体外式除細動器

平成29年度 品川区立八潮南特別養護老人ホーム事業報告

1. 総括

今年度は、昨年から継続して利用者一人ひとりにとっての安全や安心を優先する生活の支援を目指した。また、季節にちなんだお茶会やお祭り等の催しを月1回程度行い、利用者自身が生活の中に楽しみを感じられる取り組みを実施した。一方では、「看取り介護」を進めるため、看取り委員会を立ち上げ、指針やマニュアル等の整備や研修を実施し、精神科医による看取りに関する勉強会を開催した。サービス向上の取り組みとしては、虐待防止委員会にて不適切ケアの意識を高めるようにした。感染症については、2月に利用者が数名インフルエンザに罹患したが、環境整備、消毒等を強化した結果、拡大することなく1フロアのみで終息させることができた。

職員関係においては、4月時点で1名予定人数が補充できず、年度途中の退職と産休により人員補充ができないまま1年が経過し、中途採用と派遣介護士で勤務体制を組んだが、一部の職員に夜勤等の負担が偏ってしまった。

稼働率について上半期は、前年度に比べ退所が多く、早めに入所調整をしても新設特養の開設の影響により、入所調整順位の低い方まで順番がまわり、入所に繋がらないケースが散見された。下半期は入院者の状態から入所調整に早めに動けるケースが多かったため、ベッドが空いている期間の減少に繋がり、下半期の稼働率は目標に近い数字が続いた。それでも年間を通じては、目標稼働率にはいたらなかったが、昨年よりも多少高い稼働率となった。また、年間を通して入院者は多かったが、早期対応により平均入院日数が昨年よりも短くなっており、それも稼働率のアップに繋がった要因である。ショートステイは入院や施設入所等によるキャンセルが多く、目標には至っていないが、昨年よりも多少稼働率がアップした。また、写真で説明できるようにショートステイ用のパンフレットを新たに作成し、面接時や各在宅介護支援センターへの配布用に活用した。

2. 利用状況

(1) 利用者状況

<要介護度>

(平成30年3月31日現在 単位:人)

要介護度	1	2	3	4	5	合計
利用者数	1	7	27	26	19	80

- ・平均要介護度 3.7 (平成28年度3.7) (※一時利用含む)
- ・全利用者のうち要介護度3以上の利用者が90.0%を占める。

<年齢>

(平成30年3月31日現在 単位:人)

性別年齢	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	計
男	0	1	1	3	10	5	0	20
女	3	1	2	5	11	35	3	60
計	3	2	3	8	21	40	3	80

- ・平均年齢 88.8歳 (平成28年度88.7歳) ・最低年齢 51歳 ・最高年齢 103歳

(2) 稼働率

平成・年度	29年度	28年度	27年度
稼働率 (%)	94.8	93.7	94.3

3. 援助計画

(1) 日課・週課

利用者本位の姿勢を重視し、利用者自身が生活の中で力を発揮できるよう支援した。その結果、食事や日常の基本的な介助が増加し、食事時間を利用者本位の時間に合わせて実施することが難しくなる場面や、職員の超過勤務が発生した。

(2) 機能回復訓練

- ① 活動性の高い方には、座位での四肢の屈伸運動(集団での体操を含む)、手すりや平行棒を使用した立ち上がり動作訓練を中心に、平行棒内や廊下での歩行訓練、片脚立位訓練、階段昇降等を状態に応じて実施した。
- ② ベッドで過ごす時間の長い方は四肢・体幹の筋力訓練と、他動運動・ストレッチ訓練を行った。褥瘡や拘縮に予防が必要な方を優先的に実施した。
- ③ 動作の介助(特に起居・移乗動作)では立ち上がる前に足を引く、体幹を前傾させるといった、「身体機能を維持するための介助」の取り組みを続けた。繰り返し行うことで動作の再獲得や筋力の維持に効果が認められた。また、筋緊張を緩和し、拘縮進行と褥瘡予防の為に臥床姿勢や座位姿勢の調整(ポジショニング)を実施した。
- ④ ショートステイでのリハビリを強化し、食前体操を今年度も引き続き実施した。計159回実施、延べ参加人数1287人。初参加の時は慣れない様子だった方が、体操を楽しみにしている様子も見て取れた。利用者同士の交流の場にもなっていた。

<機能回復訓練実施状況>

(延人数)

平成・年度	29年度	28年度	27年度	
内容	歩行訓練	86	123	71
	立位バランス訓練	92	97	92
	上肢機能訓練	758	681	581
	下肢機能訓練	1541	1,488	936
	体幹機能訓練	579	523	230
計	3,056	2,912	1,910	

(3) 余暇活動

利用者の声を聴き、地元のお祭りや、ふれ合い寄席などに参加した。また納涼会や花火、桃の節句など季節に沿った催しを月1回程度のペースで実施した。

ショートステイではドライブ、折り紙、カラオケなど利用者の希望に応じた企画が好評であった。

(4) 行事

季節の変化を感じられるよう、桜の時期のほか随時団地内の散歩や買い物などで外出をした。また法人の行事や八潮団地内のお祭りなどに可能な限り参加した。

(5) 利用者の健康管理

日常的な観察を重視し、介護士と医師・看護師との連携を図り対応した。また、褥瘡や感染症の予防等も含め、看護師、管理栄養士、リハビリ担当者、介護士、相談員、ケアマネージャーとのカンファレンスを行い早期対応、早期治療に心がけた。また、終末期に近い状態の方については、密に医師と連絡を取り緊急時も対応できた。一方、一部フロアで数名インフルエンザの感染者が出たが、環境整備、消毒等を強化した結果、他フロアへの拡大も無く終息した。

<入院状況>

年度	入院延べ人員	入院延べ日数	平均入院日数
29年度	99	1,265	12.7
28年度	70	1,584	22.6
27年度	61	1,655	27.1

(6) 食事

献立は、季節にあった食材やメニューを取り入れ、月に一回主菜の選択食を実施した。全体的な栄養状態向上のため、利用者が好みそうな野菜(人参や南瓜等)を多めにし、残食の低下に努めた。また、栄養状態が低下している方には必要に応じて栄養補助食品を提供し、なるべく負担が少なく栄養が摂れるようにした。

<食事形態の状況>

(実人数)

	ゼリー	ペースト	極刻み	刻み	粗刻み	一般食	経管栄養
29年度末	0	16	18	19	18	6	3
28年度末	0	12	17	23	16	10	3
27年度末	0	13	21	19	13	13	2

4. 会議・研修

(1) 研修

法人の職員研修、品川福祉カレッジ、東京都社会福祉協議会の研修等へ参加した。また現任研修では、委員会等と関連する研修を実施し、看取りについては医師から直接施設で情報提供を進めた。

(2) 会議・委員会活動

法人内特養の生活相談員連絡会を実施し、稼働率向上その他の課題解決に取り組んだ。また役職者等連絡会、委員会活動(事故防止、身体拘束廃止、感染症対策、褥瘡予防、虐待防止)等のほか、随時ケースカンファレンスを開催した。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

5月と11月の2回、事業説明会を実施した。5月は事業報告および上半期の予定について説明した。11月はフロア毎に開催し、ご家族との懇談会を行った。

<面会>

平成・年度	29年度	28年度	27年度
面会延べ人員	7,128人	7,230人	7,226人

(2) ボランティア

介護補助、レクリエーション等について受け入れを実施した。今後も利用者に対する方針や施設の状況の理解を進め、利用者本位で自立につながるボランティアの受け入れを進めていきたい。

<活動状況>

(延べ人数)

平成・年度	29年度	28年度	27年度
ボランティア	235人	243人	120人

(3) 実習生

実人員3人(昨年度1人)、延べ日数は56日(昨年度17日)の実習生(介護福祉士、社会福祉士)を受け入れた。

(4) 地域社会との交流の推進

地域開放事業(体育館、グラウンド開放)の利用調整会議、八潮地区防災協議会に定期的に参加した。また、南地区の総合防災や美化運動にも参加した。こみゅにていプラザの災害緊急時の管理体制の一環として当施設で同プラザの鍵を管理する等、地域防災訓練を協働で行っている。

6. 短期入所生活介護事業(ショートステイ)

(1) 実施概要 ・定員19名 居室 1階多床室(4人)4部屋・個室3部屋

目標稼働率は90.0%に届かなかった。施設入所によるサービス利用の終了や入院、その他のサービスへの移行等により、以前に比べ申込者数が減少している。そのため特に新規利用の開拓に向け、近隣在宅介護支援センター等への空き情報の提供やニーズ調査などを行なった。また、ショートステイ用のパンフレットを新たに作成し、面接時や各在宅介護支援センターの配布用に活用した。

(2) 利用実績

平成・年度	29年度	28年度	27年度
延べ日数	6,078日	5,982日	6,012日

(3) 稼働率

平成・年度	29年度	28年度	27年度
稼働率(%)	87.7	86.3	86.5

7. 防災

防災センター(ビル管理業者に委託)と連携し、毎月1回、消火機器の取り扱い・避難誘導・消火活動等の総合防災訓練を複合施設として実施した。また本部との連携の下、BCP(事業継続計画)訓練を実施した。

8. 施設管理・環境整備・備品購入等

設備管理について管理業者と連携し、維持管理に努めた。開設から7年経過し機械や備品の修理や買い替えが多かった。また、開設当初から懸念していた3階の体育館に続く通用口の開口部を封鎖したことで、空調環境を整えた。

平成29年度 グループホーム八潮南事業報告

1. 総括

日常の支援では、入居者一人ひとりの生活する姿を描き、買い物から食事作り、洗い物までの流れを分担して行い、それが難しい利用者には意見を述べる機会を作る等の支援を行い、「共に生活する」ことを意識して支援した。また、書道を指導できる利用者が入居され書に親しむ方が増加し、余暇の楽しみにつながっている。

事故については、転倒による肋骨骨折が1件発生した。その他、ひやりはっと報告を含む事故報告は74件であった。内容は主に、転倒・敷地内の離設、服薬忘れであった。事故報告についてはその都度当該ユニットを中心に検証を行い、再発を防ぐための取り組みの構築まで行うようにした。

感染症においては、例年通り消毒や加湿、衛生管理面の対応を強化し、予防に努めたため、入居者のインフルエンザ等の発生はなかった。

また、当年度入居者1名の看取りケアを行った。本人、ご家族の意向を伺い、ご家族、訪問診療医、介護士が連携し、ご本人が安楽に過ごせるケアを行った。

当年度は福祉サービス第三者評価を実施した。課題として、各種マニュアルを整える、家族を交えた催し等の提案、個人ケースファイルの活用などが挙げられた。

入居者状況としては、29年度は4名の入退居があった。退居理由は1名が入居中のご逝去、1名は長期入院、2名は他特別養護老人ホーム等への入所であった。また90歳以上の利用者5名が気管支炎、肺炎等によりそれぞれ1~3ヶ月入院した。入退居、入退院が多かったため、稼働率は92.9%となっている。入居者の状態は加齢とともに身体介護を必要とする方が増え、現在90歳を超える利用者が2ユニット合わせて10名入所中。今まで以上に職員の支援が必要な状態となっている。

(1) 利用者状況

<要介護度> (平成30年3月31日現在 単位:人)

要介護度	1	2	3	4	5	合計
利用者数	6	3	4	5	0	18

・平均要介護度 2.4 (平成28年度2.4)

<年齢> (平成30年3月31日現在 単位:人)

	~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~99	100~	計
男	0	0	1	0	1	0	0	2
女	0	0	0	2	4	8	2	16
計	0	0	1	2	5	8	2	18

・平均年齢 90.8歳 (28年度90.6歳) ・最低年齢 75歳 ・最高年齢 101歳

(2) 稼働率

平成・年度	29年度	28年度	27年度
稼働率 (%)	92.9	94.6	94.0

2. 援助計画

(1) 日課・週課

入居したことによってこれまでの生活の流れが途切れることなく、地域の一員として社会とつながった生活を目指した。また個別ニーズに合わせ、安心して共同生活ができるように支援した。

(2) 行事

お花見は入居者の提案によりお弁当を作り、みんなで近隣公園に行き楽しむことができた。また、ゆず湯、お正月、節分、ひな祭りなどの年中行事をユニット単位や全体で行った。八潮地区のフェスティバルやお祭りにも参加した。

(3) 利用者の健康管理

嘱託医（内科・精神科医）による隔週の訪問診療を基本とし、日常的な健康管理を行った。また、必要な方には、訪問歯科を依頼している。

90歳以上の入居者が多いことや、介護の重度化もあり、よりきめ細かい健康管理や体調の変化に早めに気付く事が必要な状況である。

(4) 食事

毎日の食事は入居者の意見を聞き、買い物や調理、片付け等を、入居者・職員と共に行っている。入居者の誕生日には、好きなものをリクエストしてもらい、店屋物を活用し、楽しみのひとつとなっている。また、身体の状態に応じて、飲料にとろみをつける、ミキサーにかける、介護食を取り寄せるなど、食事状態に工夫して提供している。

3. 会議・研修

(1) 研修

法人主催の職員研修、外部研修等については、品川福祉カレッジ、東京都認知症介護実践者研修他へ参加した。

(2) 会議・委員会活動

毎月1回の職員会議のほか、各ユニットでのケース会議を開催した。会議の中で、利用者とのコミュニケーション等をテーマに、スキルアップの研修を継続している。

4. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

6月に事業説明会を実施し、事業経過報告などを行った。また、面会時には本人の状況や医療面の対応について説明し、家族からの意見を聴取してきた。

(2) ボランティア

ほたる鑑賞や歌のボランティアの活動が定着してきている。今後も入居者に対する方針や施設状況の理解を進め、利用者本位で自立につながるボランティアの受け入れを進めていきたい。

(3) 地域社会との交流の推進

法人が主催する地域交流事業や、八潮団地内の行事にも参加した。入居者の希望を聞き、地域とのつながりを重視したい。散歩や買い物に出かける際に声をかけてくれる住民もいて、今後も地域の一員として良好な関係を築いていきたい。

(4) 防災

防災センター（ビル管理会社に委託）と連携し、特養と合同の毎月 1 回の総合防災訓練を実施した。

(5) 施設管理・環境整備・備品購入等

設備管理については、日常的にビル管理業者担当者と連携し、維持管理に努めた。

平成29年度 品川区立中延在宅サービスセンター事業報告

1. 総括

「必要な人に、必要なサービス」を念頭に置き、個別対応を重視したケアに力を入れた。適切なアセスメントにより「利用者を知る」ことから始め、本人のニーズに合わせた対応を取ることに心掛け、サービス提供を行った。必要なサービスの内容は様々であるが、利用者の意欲や身体機能の向上に大きな影響があった。そのため家族の介護意欲も向上し、介護負担の軽減にも繋がっている。

認知症対応型通所介護では、様々な BPSD(認知症周辺症状)のある方を受け入れてきた。「その人を否定することなく、その人自身を人として受け入れる」姿勢を持ち、新たな利用者には、まずは通所することを第一目標にサービスを開始している。通所介護同様、利用者を知ることに努め、適切かつ必要なアセスメントを行い、通所介護計画を作成し、チームケアを実践した。少人数での活動であるため、事前に活動プログラムを決めることなく、その日の状況に合わせ職員と活動を組み立てている。

2. 利用者状況 (1) 介護保険サービス

①年間利用者総数および稼働率(一般デイ・予防デイ・認知症対応型デイ)

	平成29年度			平成28年度			平成27年度		
	一般	総合事業	認知症	一般	総合事業	認知症	一般	予防	認知症
合計	4,659	2,112	2,216	4,907	1,415	1,790	5,207	1,515	1,658
実施日数	308	308	308	308	308	308	309	309	309
1日当り利用者数	15.1	6.85	7.19	15.9	4.6	5.8	16.9	4.9	5.3
稼働率	77.7%		60.9%	72.4%		58.1%	76.7%		53.7%

②登録者数内訳 (要介護度別・人)

30.3.31 現在

	一般デイサービス									認知症対応型デイサービス								
	29年度			28年度			27年度			29年度			28年度			27年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
事業対象	1	2	3	1	4	5	2	1	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
要支援1	0	14	14	4	13	17	2	12	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	3	14	17	1	7	8	1	7	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	8	19	27	11	19	30	8	24	32	1	6	7	1	3	4	2	1	3
要介護2	7	8	15	6	10	16	6	7	13	1	1	2	1	1	2	0	4	4
要介護3	1	7	8	2	8	10	2	9	11	1	3	4	1	4	5	2	6	8
要介護4	0	3	3	0	1	1	1	5	6	1	5	6	0	3	3	1	2	3
要介護5	0	2	2	0	2	2	1	2	3	0	2	2	1	1	2	1	3	4
合計	20	69	89	25	64	89	23	67	90	4	17	21	4	12	16	6	16	22

- ・目標稼働率を一般デイは80%、認知症対応型デイを65%としたが達成できなかった。新規は増やすことができていたが、ハードリピーター(週3回以上の利用者)の利用終了が相次いだことが未達成の最大要因である。

- ・新規の利用者は要支援者、事業対象者が目立っているが、長期に利用している要支

援者が更新調査に合わせ介護に変更される事が多く見られたため、要支援者の占める割合に影響は少なかった。

- ・利用終結の理由としては施設入所が多い1年だった。認知症対応型通所介護では特別養護老人ホームへの入所が多く、その他では有料老人ホームへの入所が目立った。特に要支援者、要介護1の利用者の施設入所が多く見られた。

(2) 介護保険外サービス
(訪問給食/通所サービス)

	平成29年度	平成28年度	平成27年度
サービス提供数/回	887	1,066	1,467
実施日数/日	308	308	309
1日当り利用者数/人	2.87	3.46	4.75

3. 援助経過

<年間プログラム>

行事名	開催日	参加人数
菖蒲湯	5月1日(月)～5日(金)	87
くつろぎ祭り	10月14日(土)	15
ゆず湯	12月18日(月)～22日(金)	89
餅つき	12月23日(土)	14
新年会	1月4日(木)～10日(水)	182
豆まき大会	2月3日(土)	20

上記行事の他、外出行事も実施した。

- ① 喫茶・軽食(和風ファミリーレストラン)：平成30年1月17日～2月10日(計12組51名参加)
- ② 食事(和風ファミリーレストラン)：平成30年2月13日～2月21日(計6組14名参加)
- ③ 散策コース(池上梅園)：平成30年2月27日～2月28日(計2組5名参加)

4. 家族、地域社会との関わり

- (1) 連絡ノート等を活用し、家庭での様子・利用中の状況を互いに把握するよう努めた。活動状況については、写真を多用し利用者の状況がより詳しく伝わる事を意識した。体調の変化等については、電話等で迅速に連絡、緊急対応等の措置を取った。
- (2) 行事、日常生活の支援等にボランティアを積極的に受け入れた。
- (3) 祭礼行事や、防災訓練、清掃活動等を通して、地域の方との交流を深めた。
- (4) 複合施設全体として地域開放事業「くつろぎ祭り」「もちつき」を実施した。以前は行事に合わせて臨時利用として受け入れていたが、近年はご家族や友人と参加される方が増えている。

5. 「身近でトレーニング」利用者数実績

29年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	28年	27年
実施回数	12	13	11	13	13	11	13	12	12	12	12	12	146	143	144
登録利用者数	34	34	34	34	34	34	35	35	35	35	35	35	414	445	244
延べ利用回数	114	113	98	103	92	92	127	114	119	115	106	108	1,301	1,319	817

平成29年度 品川区立八潮在宅サービスセンター事業報告

1. 総括

今年度も引き続き日々のサービス向上に努めた。また、新規利用や増回、変則的な利用希望等にもできるだけ添うようにケアマネージャーとの連携にも努め、稼働率の向上を図った。品川区日常生活総合事業については、対象利用者にいきいき支援活動の一環として、外出プログラムの行先や、オレンジカフェぽっかぽかを実施した。利用者状況としては、体調不調、怪我等による入院、施設入所と、また要支援から要介護になる方も多かった。要支援の方の利用が減り、その為稼働率が下がったが、要介護の方の利用が増え、収入は目標に達することができた。リハビリについては、1名の理学療法士により週1回実施するに留まり、リハビリ体制の再構築が急務となっている。

2. 利用者状況 (1) 介護保険サービス

年間利用者数及び稼働率 (一般、総合事業・予防、対象外)

	平成29年度			平成28年度			平成27年度		
	一般	総合事業	対象外	一般	総合事業	対象外	一般	予防	対象外
男性	1,749	368	0	1,561	402	17	1,793	296	48
女性	4,483	737	0	4,637	1,211	0	3,573	1,210	0
合計	6,232	1,105	0	6,198	1,613	17	5,366	1,506	48
実施日数	308	308	0	308	308	17	309	309	48
1日の人数	20.2	3.5	0	20.1	5.2	1	17.4	4.7	1
稼働率	84.1			89.5			80.3		

登録者数内訳(要介護度別 H30.3月現在)

	一般デイサービス								
	29年度			28年度			27年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
事業対象者	0	1	1	1	1	2	0	1	1
要支援1	2	8	10	1	11	12	1	8	9
要支援2	1	1	2	3	6	9	3	8	11
要介護1	10	16	26	11	22	33	9	20	29
要介護2	7	10	17	4	11	15	9	7	16
要介護3	14	11	25	5	5	10	5	7	12
要介護4	2	6	8	4	5	9	3	4	7
要介護5	2	5	7	1	1	2	0	1	1
合計	38	58	96	30	62	92	30	56	86

(2) 介護保険外サービス（訪問給食／通所給食）

	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
食数	1,428	1,616	1,759
実施日数	308	308	309
1日あたりの利用者数	4.6	5.2	5.7

3. 援助経過

年間プログラム

行事名	開催日	参加人数 (利用者参加数)
オレンジカフェぽっかぽか	7月29日	48名(19名)
外出行事(KITTE)	9月19日	5名
外出行事(KITTE)	10月5日	4名
外出行事(KITTE)	10月18日	4名
外出行事(KITTE)	11月9日	4名
外出行事(KITTE)	11月13日	4名
オレンジカフェぽっかぽか	11月25日	30名(16名)
外出行事(KITTE)	11月27日	4名
ぽっかぽかクリスマスコンサート	12月16日	40名(17名)
オレンジカフェぽっかぽか	2月17日	32名(17名)

4. 家族、社会との関わり

- (1) 家族へは連絡ノートや電話による状況報告を実施している。また、支援センターにも適宜、連絡・報告をして連携を図っている。
- (2) 介護者教室は移乗介助や福祉用具等につき、専門職による講義や実習を5回実施した。特に認知症の講義が好評で32名の参加があった。
- (3) ボランティアは、サークル活動、企業ボランティア等が入っている。ボランティアによるイベントも多く開催できた。
- (4) 地域開放事業として12月に「クリスマスコンサート」を実施し、また、認知症カフェ「オレンジカフェぽっかぽか」も年3回開催している。

5. 介護予防事業

「マシンでトレーニング」の利用者は、前期・後期共に定員10名で実施したが、体調不調で中止になった方が4名、新規の方も入り、年間では延べ358人の利用となっている。

6. 防災

毎月支援センターと合同で防災訓練を実施した他、年2回「サンかもめ」と、3月には「八潮わかくさ荘」も含めた総合防災訓練を実施している。

7. 設備関係

建物や備品等の老朽化に対して、浴槽タイルの張替え、乾燥機の買い替え等を行った他、利用者支援としてテレビでインターネットが見られるようにした。

平成29年度 品川区立大井在宅サービスセンター事業報告

1. 総括

- ・事業所で設定した目標稼働率を達成し、登録者数も増える傾向であった。
- ・男性向け趣味活動の場としての認識が高まり、男性利用者の地区外からの利用もある。
- ・趣味活動の充実、要介護対象者には楽しんで行えるリハビリ体操を提供し、本人や家族のニーズに対し、きめ細やかな対応に努めた。
- ・多世代交流というテーマに基づき、利用者がサービスを受けるだけでなく地域の児童施設に出向き、持っている才能を用いて子ども達を楽しませ、いつまでも地域社会に繋がりを続ける手助けを行った。
- ・ボランティア依頼を積極的に行いサークル活動を充実させ、演芸系のボランティア来所時は、近隣の認知症対応型通所介護の利用者をお招きし、地域交流を行った。
- ・認知症対応型通所介護では、引き続き身体機能能力の高い方を対象とし、残存機能の活用のため趣味活動の充実と、利用者の願いを活かした活動を目指した。また、身体能力の維持のため散歩等を実施し、筋力維持に努めた。

2. 利用者状況

(1) 介護保険サービス

- ・年間利用者総数および稼働率(一般デイ・予防デイ・認知症対応型デイ) 30.3.31 現在

	平成29年度			平成28年度			平成27年度		
	一般	総合事業	認知症	一般	総合事業	認知症	一般	予防	認知症
総計	6,426	1,517	2,640	5,859	1,608	2,667	5,462	2,292	2,641
実施日数	304	304	308	308	308	308	311	311	311
1日当りの利用者数	21.1	4.9	8.7	19.0	5.5	8.7	17.5	7.3	8.5
稼働率(%)	94.4%		73.5%	85.7%		86.5%	83.6%		79.0%

- ・登録者数内訳 (要介護度別)

30.3.31 現在

	一般デイサービス									認知症対応型デイサービス								
	29年度			28年度			27年度			29年度			28年度			27年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
要支援1	4	7	11	3	8	11	4	6	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	4	17	21	2	6	8	1	9	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	21	31	52	14	20	34	13	19	32	1	8	9	1	8	9	0	10	10
要介護2	5	14	19	3	9	12	4	12	16	2	7	9	2	7	9	2	5	7
要介護3	2	5	7	3	5	8	4	6	10	0	0	0	0	0	0	0	2	2
要介護4	2	4	6	0	3	3	2	8	10	0	3	0	0	3	3	0	5	5
要介護5	2	3	5	1	1	2	0	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事業対象者	1	4	5	1	4	5	1	5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
申請中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	41	85	126	27	56	83	29	71	100	3	18	21	3	18	21	2	22	24

- ・稼働率は昨年度から比較すると一般デイが8.7%増加、認知症デイが1.3%減少。認

知症デイは今年度は定員は12名計算を行ったため、前年度よりも稼働率は下がっているが、日々の利用者数は同数である。前年度は登録者数が増えなかった、今年度は多くの登録をさせていただくことが出来た。地域の通所介護施設同士の競争も激しく、その中で稼働率維持は、職員とケアマネージャーの努力であり、今後、登録者数を維持していくためには、きめ細やかな職員教育を実施し、一層丁寧な接客と、提供プログラムを含むサービス向上の絶え間ない努力が必要と感じる。

3. 援助経過

年間プログラム

行 事 名	開 催 日	参加人数
菖 蒲 湯	5月1日～5日	144名
ゆ ず 湯	12月18日～22日	148名
節 分	2月2日(金)	35名

上記行事の他、外出行事も実施した。

- ① 初詣：平成30年1月4日～1月6日（15名参加）
- ② 花見：平成30年3月19日～3月22日（18名参加）

4. 家族、地域社会との関わり

- (1) 電話、連絡ノート等を活用し介護士・看護師が家族等と密に連絡を取るよう努めた。
- (2) 介護者教室を1回実施し、利用者の家族や地域住民に呼びかけ参加を促した。介護の知識習得と共に介護者の意見交換及び気分転換の場になった。
- (3) 利用中の御家族への事業者説明会を実施し、認知症通所介護においては町会長や民生委員の方々をお呼びし、運営推進会議を2回実施した。
- (4)

5. 介護予防事業

参加者の低迷から、事業を休止している。

6. 防災

毎月1回定期的に火災想定訓練又は地震想定訓練を行い、年に1回、高齢者住宅わかくさ荘との合同避難訓練を実施した。また、消防署職員の立ち会いをしていただいた。

7. 設備関係

・建物や備品等の老朽化に対して、電気引き込み線の主幹ケーブル、浴水循環器、トイレ排水装置の交換を行った。

平成29年度 在宅介護支援センター事業報告

1. 総括

- (1) 地域包括支援センターの機能【ア）総合的な相談窓口・権利擁護機能 イ）介護予防マネジメント ウ）包括的・継続的マネジメント】等について、品川区高齢者福祉課と連携し、一人ひとり丁寧に対応してきた。特に盛夏には高齢者の熱中症の予防策として、水分補給の重要性を伝えると共に必要に応じ経口補水液を配付しつつ、個別の状況把握に努めた。
- (2) (地域型) 在宅介護支援センターとして、各地域に生じている福祉ニーズを把握し個別相談を進めるとともに、総合的な地域福祉力の向上を図るよう関係機関と連携した。特に医療機関や民生委員との関係向上を図り、認知症サポーター養成・見守りネットワークの構築、認知症カフェおよびコミュニティカフェ開催などのほか、防災関係の情報提供や、緊急時の不安を解消できるよう地域づくりに力を入れた。
- (3) 居宅介護支援事業所として、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるよう、利用者・家族に対して適切なアセスメントを実施した。そのことに基づき、一人ひとりに対して公正中立で利用者本位のケアマネジメントを実施した。
- (4) 認知症高齢者の対応や高齢者虐待の防止および成年後見制度の活用等について、適切な支援につながるよう高齢者福祉課や各関係機関とも連携を図った。また、入退院時のサービスに係る連絡調整・施設入所に関する相談や手続き代行など、在宅生活の継続や適切な施設利用につながるよう調整に努めた。

2. 地域づくり等

- (1) 八潮在宅介護支援センターでは、地区ケア会議の中で事例検討の機会を多く持った。認知症サポーター養成講座は、地域団体や郵便局員、イオン従業員を対象に実施した。認知症サポーターレベルアップ講座として、八潮在宅サービスセンターと共に「オレンジカフェぽっかぽか」を年3回開催した。その中では訪問看護ステーションの協力を仰ぎ、健康チェックも実施して盛況であった。また、自治会等からの要請で介護保険等についての講座も行っている。次年度も引き続き、自治会との連携の他、民間事業所との協働を進め、地域活動の推進を図っていきたい。

八潮地区は高齢化が顕著に進んでおり、給付管理数も伸び、介護支援専門員の持ち件数に上限があることで、民間居宅支援事業所に依頼することが多くなった。一人当たり35件以上を担当している状況があり、対応に苦慮した。

- (2) 中延在宅介護支援センターでは、総合相談事業や地区ケア会議で行う個別ケースの事例検討等を通じて地域課題の把握に努め、課題整理と解決に向けて次年度への足がかりとなった。また、複合施設のロビーを活用し「だれもが集える場」としての喫茶を行った。高齢者に限定せず、障害のある方や子育て世代の方など、だれでも自由に立ち寄り、気軽に話せる交流の場を目指した。傾聴ボランティアの協力も得て、毎月1回の定期開催が定着した。今年度は定期開催に際してプチレーブのパン販売をおこなった結果、若い世代の方々が施設内に

足を運んで下さる機会が増えてきた。

(3) 大井・大井第二在宅介護支援センターでは、区より地区ケア会議のあり方が示され、事例検討の機会を多く持ち、個別の事例から地域の課題までを考えるとという方向に転換し始めた。しかし、例年行ってきた地域づくりも並行しておこない地域との連携の強化も図った。認知症サポーター養成講座は年間7回行い、そのうち大井三丁目高齢者憩いの場において2回実施し、認知症サポーターレベルアップ事業も上記の場所にて実施し、好評であった。

3. 支援経過（相談実績）

相談者

	29年度	延 件 数			
		八潮	中延	大井	大井第二
相 談 者	本人	2,707	4,488	2,133	2,838
	家族	954	4,161	1,495	2,056
	民生委員	49	41	11	22
	病院	43	443	210	204
	施設	10	122	46	41
	関係機関	136	1,710	846	864
	その他	9	182	108	41
合 計	3,908	11,147	4,849	6,066	

相談内容

	通 所 介 護	短 期 入 所	訪 問 介 護	介 護 方 法	認 知 症	医 療	福 祉 用 具	住 宅 改 修	特 養	行 政 関 係	そ の 他	合 計
八潮	559	104	341	98	111	301	313	35	37	51	2,077	4,027
中延	3,532	776	2,545	615	493	1,729	1,802	384	200	481	2,805	15,362
大井	828	190	438	165	246	879	284	30	41	116	2,498	5,715
第二	1,617	376	886	599	445	1,083	792	155	83	147	2,697	8,880

夜間、休日相談

	件数		
	夜間	休日	合計
八潮	0	0	0
中延	4	4	8
大井	5	14	19
大井第二	0	0	0

給付管理件数（平成30年3月分）

	件数		
	介護給付	予防給付	総合事業
八潮	146	48	56
中延	193	102	116
大井	94	37	58
大井第二	131	55	75

平成29年度 八潮わかくさ荘事業報告

1. 総括

八潮わかくさ荘では、4～8階の40戸の単身者用高齢者住宅の管理及び緊急時の対応を行なった。平均年齢82.3歳、要支援・要介護認定を受けている方が11名おり、内9名がヘルパー派遣等の介護保険サービスを利用している。1年間に退居した方は9名、新入居者は7名と例年になく入れ替わりが多かった。満室になることがなく、長期入院者も続いている。

新規入居時すでに日常生活に何らかの支援が必要だったり、心身状態の変化に対応して支援が必要になる方が続いており、その都度家族や各関係機関と連絡、調整等を行っている。

今年度、開設時より活動していた自治会が、高齢化と心身状況が大変な方が多くなり会の運営が困難になったという理由で、同会総会での決議により解散している。

2. 入居者状況

入居者の心身状況の変化に伴い、日常生活についての相談やサービス調整等に支援センター、区、各関係機関と連携した。また、昼夜にわたって様子伺いを実施するなど、デイサービス、在宅介護支援センター、ワーデンが一丸となって対応を続けている。3月末現在入居者38名、内要支援・要介護認定者は11名となっている。また、長期入院中が3名の他、要介護の方の退去が進み、入居者は減っている。

〈入居者の介護サービス利用状況〉 平成30年3月31日現在(入院者を除く)

	ヘルパー利用者	デイサービス	通所給食
平成29年度	2名	4名	3名
平成28年度	12名	9名	3名
平成27年度	13名	8名	3名

3. 設備管理

建物の老朽化が進み、各居室において様々な不具合が発生しており、その都度生活に支障をきたさないように対応した。

4. 防災訓練

60号棟との合同防災訓練、八潮地区総合防災訓練、八潮在宅サービスセンター、在宅介護支援センター、サンかもめ合同の総合防災訓練に参加した。

5. その他

ワーデン業務については、非常勤職員3名を雇用し対応している。

平成29年度 大井倉田わかくさ荘事業報告

1. 総括

大井倉田わかくさ荘は、2階建て建物の1階部分計8戸の小規模な単身者用高齢者住宅である。この住宅の管理は、夜間、保障会社による、生活動作確認・非常通報・火災検知を24時間機械警備を実施した。平日の昼間は同敷地内に隣接する大井在宅サービスセンター（在宅介護支援センター）が、様々な相談を受けている。

基本的には自立・自活されている高齢者が入居しているが、8名中、3人が要介護認定を受けそれぞれ介護サービス受給及び住宅改修を行っている。

2. 入居者状況（平成30年3月末現在、8名入居）

救急要請し入院された後に在宅困難と判断され特別養護老人ホームの一時入所を経て、有料老人ホームに入所された。また、認知症状が見られ介護保険新規申請をし、財産管理のため成年後見制度の手続きを開始された方がおられる。一方では就労をされ、仕事で夜間自宅に帰られない方が1名おられる。

〈入居者の介護サービス利用状況〉

平成30年3月31日現在

	ヘルパー利用者	デイサービス	通所給食
平成29年度	1名	3名	0名
平成28年度	1名	3名	0名
平成27年度	2名	3名	0名

3. 設備管理

各居室において様々な不具合が発生しており、その都度生活に支障をきたさないよう対応した。消防設備の点検（年間2回）を実施した。敷地内清掃を毎月実施。

4. 防災訓練

サービスセンターとの避難訓練（11月8日）に参加を呼びかけた。当日はデイサービス厨房から出火想定とし、8名中5名の参加があった。

5. その他

警備会社の警報発報による出動が28回あった。そのほとんどが、トイレドアの開け放し及びトイレ未使用により発報が起きている。また、認知症を発症された住民の夜間の徘徊による警備会社の出動が増えている。

平成29年度 大井三丁目高齢者憩いの場事業報告

1. 総括

地域包括ケアシステムの方針である、『いつまでも、住み慣れた地域で暮らす』という在宅完結ケア型を指向し、地域で助け合いながら安心して、ゆとりある老後を過ごせる『ともにいきるまち』の小さな拠点づくりを進め、地域住民、ボランティア、関係機関等が「参加」「話し合い」「協働」し合う福祉拠点運営を品川区から受託した。

平成28年度中から開設準備を進め、平成29年4月27日に開所式を開催、高齢者を中心に多世代交流を進める地域の福祉拠点として事業を開始。事業は小規模な拠点を最大限活用し、「誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場」作りを品川区社会福祉協議会と連携し、進めた。

9月には地域交流事業（こすもすパーティー）を実施、10月からは地域密着型の地域ミニデイを開始した。

実際の運営に専属職員はおかず、法人内事業所からの委員により運営委員会を組織し、事業を企画、準備、分担、実施してきた。その過程で地域のボランティア、関係機関の協力を得て事業に厚み加わり、さらに地域交流が進んだ。

2. 重点目標

- ・安心して生き生きと住み続けられる『ともにいきるまち』の創造
- ・住民同士の相互交流が進み、生きがいを育む活動やコミュニティの形成
- ・多世代交流を進め、共助が自然と身につくまちの小さな拠点づくりの推進

3. サービス・事業内容

(1) 地域の高齢者や障害者、子育て世代等の憩いの場・交流の場

- ①ほっとサロン：品川区社会福祉協議会登録団体に部屋を貸し出し、外出機会の少ない高齢者を中心とした多世代の地域交流の場とした。
- ②縁側カフェ等を通じて、会話の機会の乏しい高齢者等が、定期的に外へ出ていくことのできる場、会話を楽しみ、安心してくつろげる場を提供し、閉じこもり防止、生活活性化等の介護予防・自立支援を促進した。
- ③園芸療法を用いて、菜園を利用した土いじりや草花や野菜などの園芸活動や、身の回りにある自然との関わりを通して、心身の健康維持、回復を目指した。
- ④家族等を介護している同士のコミュニケーションを促進し、リフレッシュを行うことのできる集いの開催。
- ⑤毎月第2・4土曜日、「ひなたぼっこ」と銘打ち多世代交流のワークショップを開催、創作活動、料理教室を通じ、高齢者が子どもたちが集い、楽しみ自然な福祉教育の機会となっている。

⑥ 9月に地域交流事業「こすもすパーティー」を開催、近隣地域住民との交流の中から、福祉ニーズを検証する機会、高齢者福祉啓発の機会として地域交流事業を実施した。わんこそうめん・豚汁などのおもてなしコーナー、地域交流・事業啓発として園芸療法紹介、マッサージ体験他を行った

(2) 学びの場

- ・認知症サポーター養成講座及びステップアップ講座の開催

認知症対策プロジェクト「くるみぷらん」の柱のひとつである「認知症理解の一層の推進」を実現し、認知症があっても住み慣れた地域で生活をし続けるまち「しながわ」の実現に向け、認知症の理解に向けた啓発活動の充実を図った。

(3) 介護予防事業

- ・地域ミニデイの開催

介護予防・日常生活支援総合事業としてボランティアによる地域ミニデイサービスを実施、健康づくり体操など高齢者の介護予防を進めた。

(4) その他

- ・夏期は品川区の「避暑シェルター」事業による水分補給の場として多くの区民の活用があった。

事業名	開催回数	利用者数 (人)	備考
縁側カフェ	---	3 1 6	
園芸療法	4 0	1 8 6	
健康づくり教室	2 0	1 2 3	10月に地域ミニデイへ移行
地域ミニデイ	2 4	3 0 8	10月開始
「ひなたぼっこ」	1 8	1 7 1	多世代のふれあい遊び
その他	---	1 2 4 6	避暑シェルター他
こすもすパーティー	1	1 6 4	地域交流事業(9月)
合計 (直営事業)	---	2 5 1 4	

ほっとサロン	4 3	1 6 1	品川ボランティアセンター事業
フリースペース「よりみち」	4 1	1 8 0	大井第二地区支え愛・ほっとステーション